令和６年度地震・津波防災訓練
（北海道豊浦町・内閣府）

実施報告書
（概要版）

北海道豊浦町について

（とようらちょう）

北海道豊浦町は、北海道の南西部に位置し、南側は海に面し、北側は山林地帯となっている。面積は約233.57平方キロメートルで、令和６年９月３０日時点の人口は3,526人である。

昆布岳や西昆布岳などの山々に囲まれ、内浦湾に面した美しい海岸線を有している。亜寒帯湿潤気候に属し、冬は積雪量が多く、特別豪雪地帯に指定されている。

農業と水産業が基盤であり、特にイチゴやジャガイモ、水稲、アサツキの生産が盛んで、豚肉の生産量は北海道内でトップクラス、また、ホタテの養殖も盛んで、町の全漁獲量の約８割を占めている。

豊浦町は地震の影響を受けやすい地域であり、特に日本海溝や千島海溝沿いの巨大地震が懸念されており、津波のリスクも高い。近隣の有珠山の火山活動も注意が必要で、噴火時には火山灰や火砕流の影響が考えられる。

また、特別豪雪地帯に指定されており、冬季には大雪による交通障害や停電のリスクがある。

町の地域防災計画では、災害時の応急対策や復旧計画が整備されており、町内各地に避難所が設置され、災害時には迅速に避難できるよう準備がされているほか、町の公式ウェブサイトや防災アプリを通じて気象情報や災害情報を提供している。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和6年10月4日（金）午前9時00分、日本海溝モデル地域、浦河沖を震源とする、マグニチュード9．1の地震が発生し、最大震度6弱を観測、大津波警報が発表されるという想定のもと訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年９月13日（金）14:00～16:30
【地震・津波防災訓練】令和６年10月４日（金）　9:00～16:30
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年10月４日（金）10:30～12:00

■主　　催：北海道豊浦町、内閣府

■参加者数：１３７名

■参加機関：訓練対象地区の自治会、北海道胆振総合振興局、北海道警察札幌方面伊達警察署、西胆振行政事務組合伊達消防署豊浦支署、豊浦消防団　等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設・運営訓練、職員による災害対策本部設置訓練

■訓練特色：本町地区、大岸地区、礼文華地区の3ヶ所で並行して実施。
併せて、職員による災害対策本部立上げの訓練も実施した。

訓 練 の 成 果

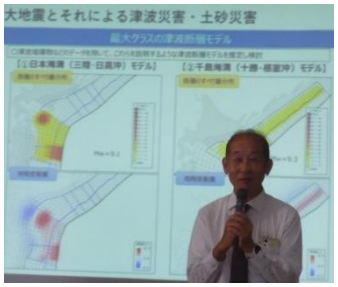
【成果】
○訓練前ワークショップで、豊浦町の災害の歴史・寒冷地や豊浦町ならではの避難特性等についての講演、防災学習ツールを用いた津波避難シミュレーションゲーム、北海道庁実施事業「耐震改修促進関係講座」での住宅の耐震性の講演により、災害や防災についての理解を深め、災害を自分事として捉える意識が醸成された。
○地震・津波避難訓練では、第一波到達予想時間68分までに参加者全員の避難が完了することができ、日頃の町民の防災意識の高さをうかがえた。
○訓練後に3ヶ所の地区ごとに避難時の課題を話し合うことで、それぞれの地区ごとに現状についての理解を深め、課題の整理を行うことができた。
○職員による災害対策本部立上げ訓練を実施し、災害対策本部の設置基準や目的の確認、求められる作業を体得し、災害時に備える心構えを持つことができた。

【課題】
●津波避難時の路面凍結、雪による避難の支障、低体温症のリスクなど、寒冷地ならでは対策を考える必要がある。
●避難先、避難手段、避難ルートについて、それぞれの意識や整備状況もバラバラであるため整備が必要である。
●訓練の参加者が一部の人であったため、より多くの人が参加し、災害時の避難行動について体験し、防災について考える契機とすることが望まれる。

９月１３日(金) 14:00～16:30　訓練実施前ワークショップ

・防災アドバイザー（谷岡勇市郎北海道大学大学院特任教授）が「豊浦町での防災について大事なこと」と題し豊浦町の災害の歴史、寒冷地や豊浦町ならではの避難の仕方等について講演を行った。
・防災学習ツールを用いた津波避難シミューションゲームを実施した。
・北海道庁実施事業「耐震改修促進関係講座」により、住宅の耐震性についての講演を行った。

▼防災アドバイザー講演



▼シミュレーションゲーム実施の様子

１０月４日(金) 9:00～10:15　地震・津波防災訓練

・午前９時に巨大地震が発生し、巨大津波が襲来する想定の下、本町、大岸、礼文華地区の各地区内でシェイクアウト訓練、津波避難訓練及び避難所開設・運営訓練等を行った。

・本町地区では、備蓄品展示を行い、住民が備蓄品の組み立てや利用などを通じ、避難所について学ぶ機会となった。

・町の課長職以上の職員により、災害対策本部立上げ訓練を行い、災害対策本部の仕組みの理解を図った。

▼津波避難訓練

▼備蓄品展示

▼災害対策本部立上げ訓練

１０月４日(金) 10:30～12:00　訓練実施後ワークショップ

・避難訓練を終えて、改めて取り組むべき地区防災活動について、アドバイザーから講演を行った。

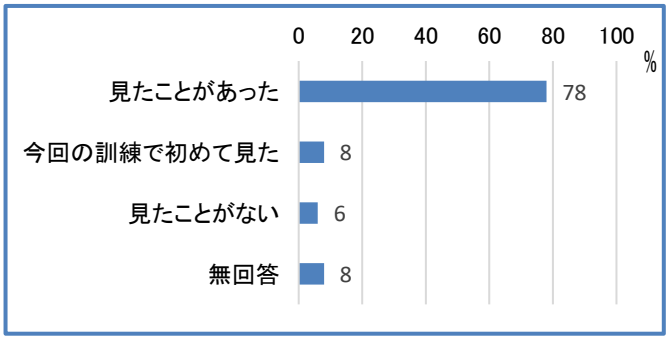
・本町、大岸、礼文華地区の各地区ごとに訓練を振返り、気づいたことやこれからの防災活動について意見交換を行った。

▼意見交換

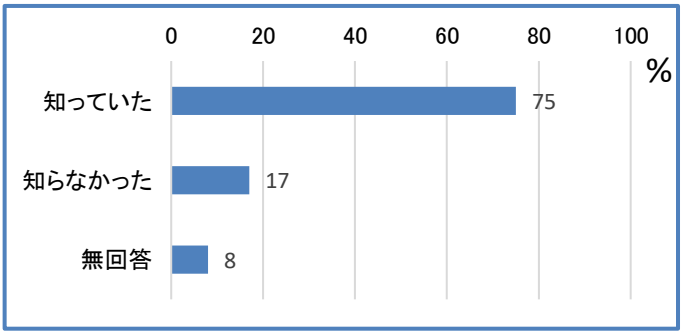
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

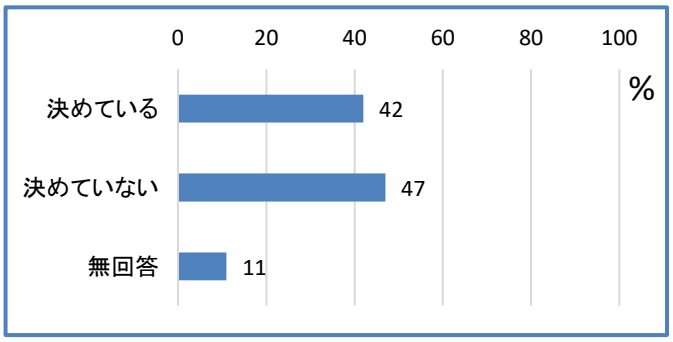
1．町で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



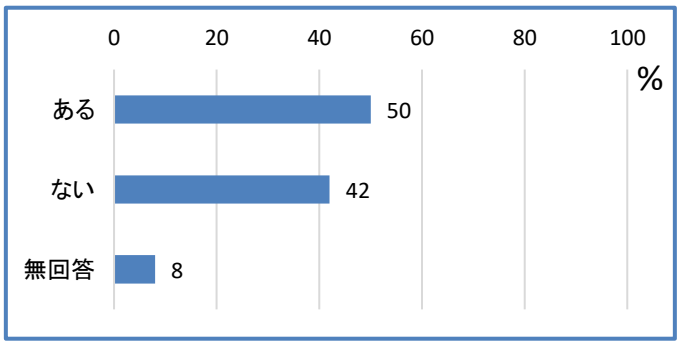
2．津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか？



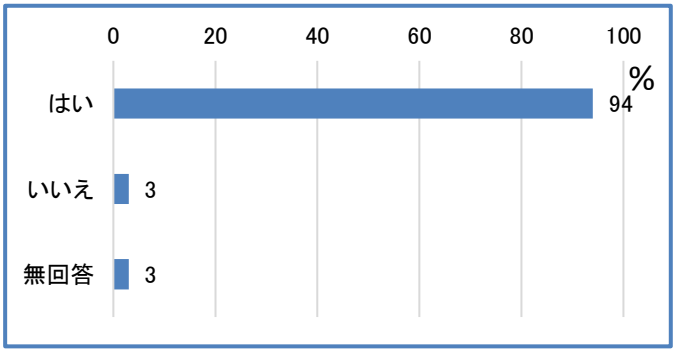
3．災害時に家族同士でどのように連絡を取り合うかを家族の中で決めていますか。



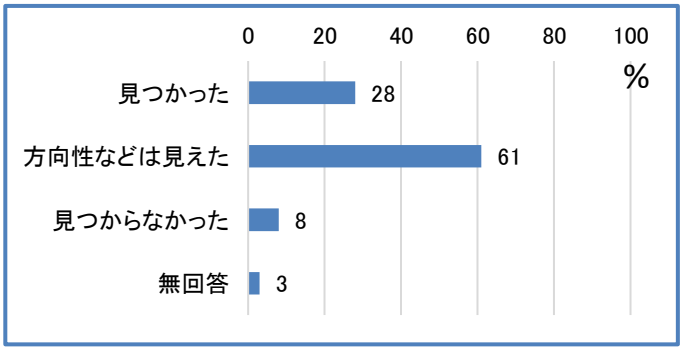
4．自治会や隣近所で災害時の避難について話しあったことはありますか。



5．今回のワークショップを通じて訓練などの必要性の意識は高まりましたか？

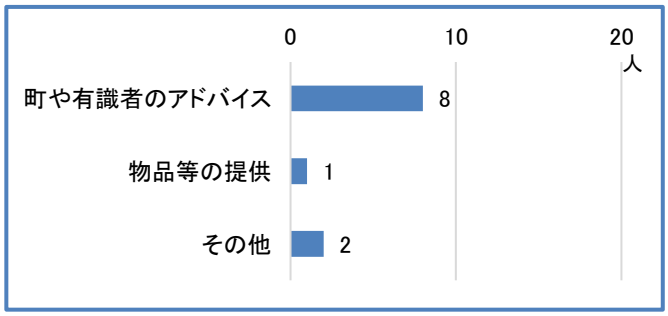


6．今回のワークショップを通じて、津波からの避難時における問題点の解決策や方向性は見つかりましたか？

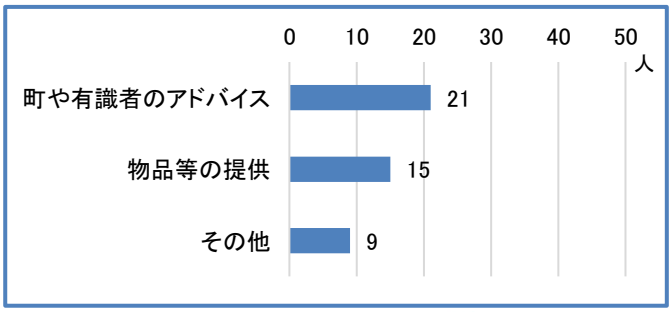


7．今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、町からどのような支援があると良いですか。(複数回答可)

（訓練前）



（訓練後）



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（千葉県長生村・内閣府）

実施報告書
（概要版）

千葉県長生村について

（ちょうせいむら）

千葉県長生村は、千葉県東部に位置する豊かな自然環境に恵まれた地域であり、稲作や野菜栽培、九十九里浜での沿岸漁業を中心に発展してきた。人口は約1万3千人で、村東部に広がる美しい海岸一帯は県立九十九里浜自然公園内にあり、首都圏の海浜レクリエーション地として知られ、夏季は多くの海水浴客やサーファーが訪れる。

長生村は、防災への取り組みとして、地域特性に応じた防災計画・マニュアル、ハザードマップ、防災ガイドブック等を策定して、地震、津波、台風などの自然災害に対する備えを強化しており、これらの取り組みを長生村ホームページ内の防災ポータル等から発信している。

また、村内各地に避難所を整備し、災害時に地域住民が迅速に避難できる体制が整っている。

長生村は、様々な施策を通して、地域コミュニティと連携しながら村民の安全確保に向けて、更なる向上に努めている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和６年１０月１４日午前９時に千葉県東方沖を震源とする震度６強の地震が発生し、同９時５分に九十九里浜・外房に大津波警報が発表される想定のもとで訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年９月16日（月）13：30～16：30
【地震・津波防災訓練】令和６年10月14日（月）　9：00～10：00
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年10月14日（月）11：00～12：30

■主　　催：長生村、内閣府

■参加者数：1,458名

■参加機関：千葉県茂原警察署、長生郡市広域市町村圏組合消防本部、千葉県防災危機管理部、千葉県長生地域振興事務所　等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練

■訓練特色：村内全域を対象として、シェイクアウト訓練及び津波避難訓練に項目を絞り、訓練に参加していただくことに重点を置き、実施した。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練実施前ワークショップでは、地域住民全員が助かるための事前対策について話し合いをした。参加者から「逃げる時は大きな声で周囲に知らせる」「近所付き合いを密にする」「危険個所を把握する」等のアイデアが出され、地域コミュニティの重要性を認識した。

○地震・津波防災訓練では、村内全域を対象に「地震発生後30分以内に避難場所（村内16ヶ所）へ避難する」を目標に掲げて、訓練を実施した。訓練には1,394名が参加して、概ね目標を達成した。

○訓練実施後ワークショップでは、地震後、津波到来が予想される場合に実施すべきことを話し合いをした。参加者から「鳴り物を使って大きな音を出しながら逃げる」「声かけして一人でも多く逃げる」「ラジオで津波情報を入手しながら避難する」等のアイデアが出され、安否確認の仕組みと要配慮者の避難誘導について「ご近所力」の重要性を認識した。

【課題】

●要配慮者の安否確認と避難誘導の仕組みをつくることが必要である。

●竜宮台築山公園への避難において、より多くの住民が迅速に避難して渋滞を抑える効果が得られるためには、駐車スペースを確保する必要がある。

●ワークショップの成果を地区防災計画や個別避難計画の策定・実践に活かすには、単年度に留まらない継続的な取組が必要である。

９月１６日(月)13：30～16：30　訓練実施前ワークショップ

・防災専門家（鍵屋一跡見学園女子大学教授）による講演の後、参加者は「地域全員が助かるために事前にやっておくべきこと」をテーマに、個人ワークとグループワークに取り組んだ。

・活発な議論が行われ、参加者は訓練に向けて防災への理解を深めた。

▼防災専門家の講演

▼訓練実施前ＷＳ

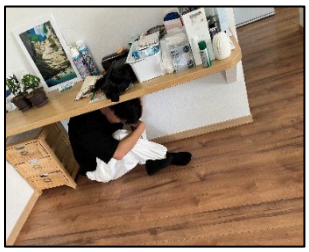
１０月１４日(月)9:00～10：00　地震・津波防災訓練

・午前９時に千葉県東方沖を震源とする震度６強の地震が発生し、９時５分に九十九里浜・外房に大津波警報が発表された想定でシェイクアウト訓練と津波避難訓練を行った。

・津波避難訓練は、一松北部コミュニティセンター、長生村尼ケ台総合公園、竜宮台築山公園等で実施した。

・各避難所において、長生中学校防災部の協力があったことから訓練が円滑に行うことができた。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練

▼津波避難訓練

１０月１４日(月)11：00～12：30　訓練実施後ワークショップ

・防災専門家による講演の後、参加者は「地震後、津波が来そうなとき、やるべきこと」をテーマに、個人ワークとグループワークに取り組んだ。

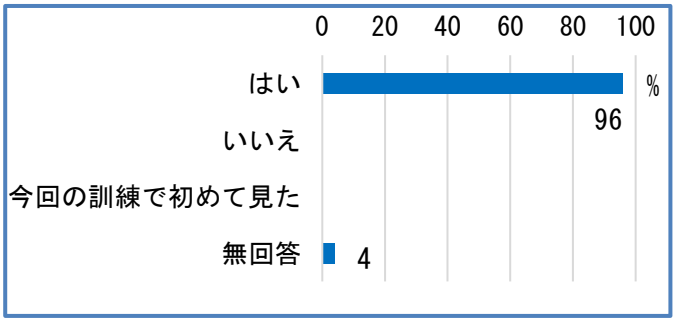
・グループを跨いで活発な議論が行われ、参加者からは多くの意見、アイデアが出され、認識の共有を図った。

▼訓練実施後ＷＳ

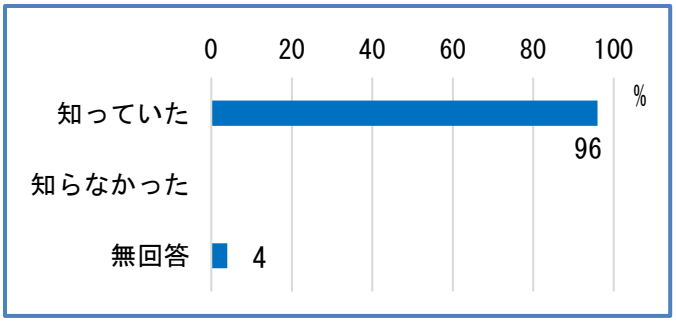
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

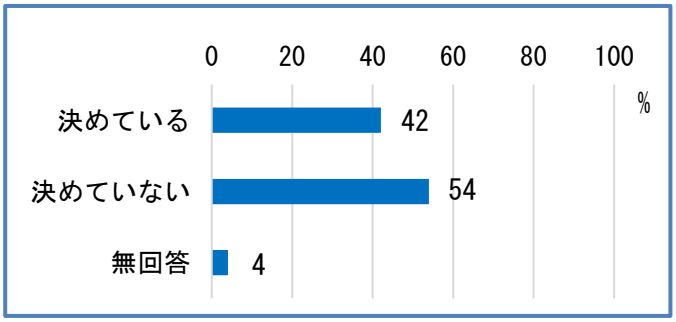
１．村で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



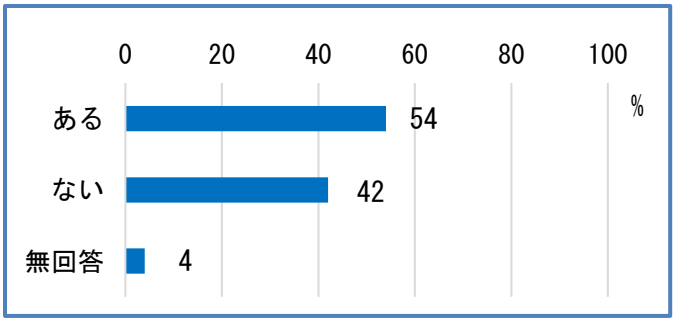
２．津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



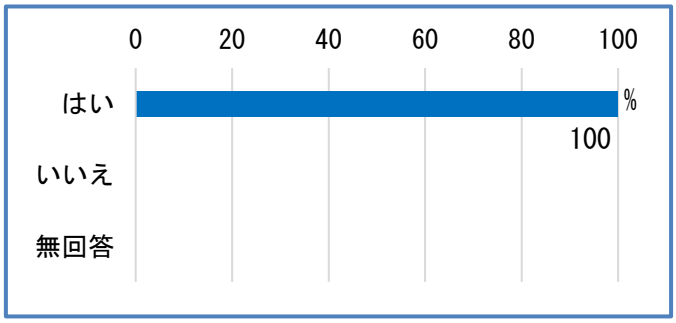
３．災害時に家族同士でどのように連絡を取り合うかを家族の中で決めていますか。



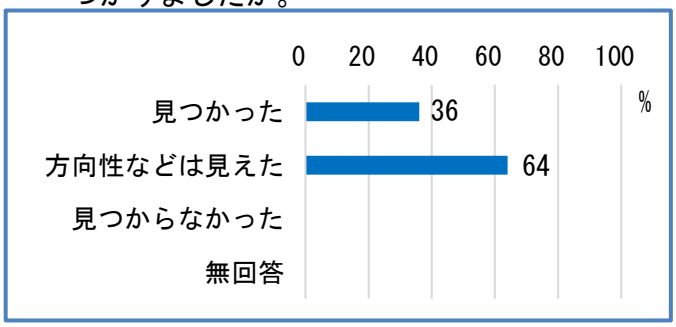
４．自治会や隣近所で災害時の避難について話しあったことはありますか。



５．今回のワークショップを通じて訓練などの必要性の意識は高まりましたか。

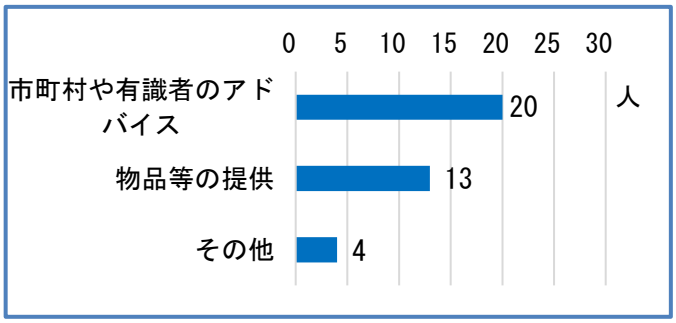


６．今回のワークショップを通じて、津波からの避難時における問題点の解決策や方向性は見つかりましたか。

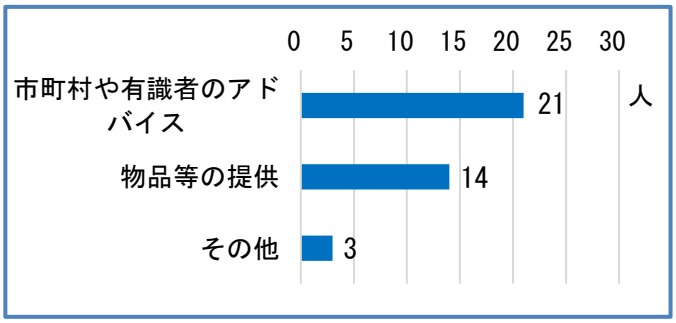


７．今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、村からどのような支援があると良いですか。（複数回答可）

（訓練前）



（訓練後）



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（新潟県上越市・内閣府）

実施報告書
（概要版）

新潟県上越市について

（じょうえつし）

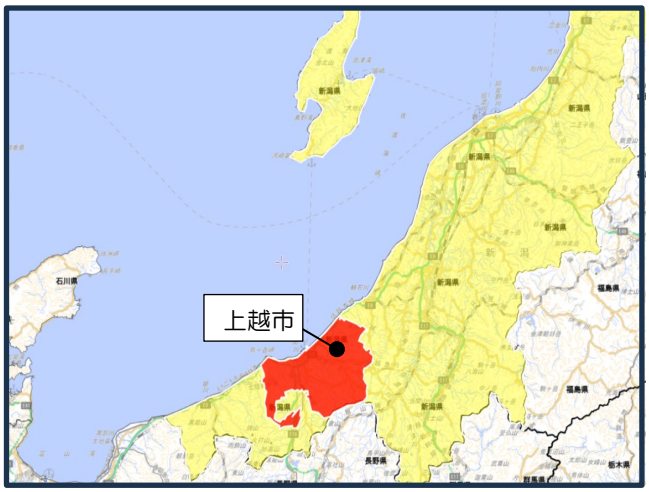
新潟県上越市は、新潟県の南西部に位置する人口約１８万人の都市で日本海に面し、豊かな自然に囲まれており、特に冬の雪景色が美しいことで知られている。

観光地としては、日本海に面した海水浴場、美しい山々に囲まれた温泉地、スキー場がある。また工業都市としては化学工業、機械工業が発展している。

日本海に面する地理特性から、地震や津波、水害、台風などの自然災害に対する対策が非常に重要であることから、地域防災計画、水防計画を策定して災害時の対応を定めており、市内各地に避難所が整備されている。

また、地域コミュニティと連携しながら定期的な防災訓練を実施することで、市民が災害時に適切に行動できるようにしている。

上越市は、様々な施策を通して、災害時の被害を最小限に抑えて市民の安全確保に向けて、更なる向上に努めている。



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和６年１０月１２日午前８時に上中越沖を震源とする震度６強の地震を観測し、新潟県上中下越に大津波警報が発表され、市内では津波による浸水被害や家屋の倒壊、土砂崩れが発生している想定のもとで訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年８月29日（木）15：00～17：00
【地震・津波防災訓練】令和６年10月12日（土）　8：00～ 9：00
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年10月12日（土）　9：30～10：15

■主　　催：上越市、内閣府

■参加者数：８，８３３名
（シェイクアウト訓練のみの参加者６，８５４名を含む。）

■参加機関：国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所、陸上自衛隊第５施設群、陸上自衛隊第２普通科連隊、防衛省北関東防衛局、防衛省自衛隊新潟地方協力本部、上越地域消防局、上越市消防団、等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報収集訓練、炊き出し訓練、避難所開設・運営訓練、防災啓発・各種防災資機材展示　等

■訓練特色：各町内会が作成した地域別避難行動計画を用いて実施した。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練実施前ワークショップでは、各町内会が作成した地域別避難行動計画の中から３町内会の計画内容が発表された。また能登半島地震において、検討が進められてきた自動車による避難が実際に確認されたことから、徒歩に加えて自動車避難に対応した避難経路、避難場所に関する検討が行われた。

○地震・津波防災訓練では、直江津地区を対象として、避難場所（２１ヶ所）に徒歩または自動車で移動し、訓練参加者は概ね津波到達時間（１５分）以内に避難を完了することができた。

○訓練後ワークショップでは、３町内会からの訓練報告を踏まえて、直江津地区は高齢者が多いことから自動車避難を取り入れて臨機応変に対応することが重要であることを認識した。

【課題】

●訓練前ワークショップでは「従来の避難経路と避難場所を再確認する」「車避難できる場所の整備が必要」等の課題が共有された。

●地震・津波防災訓練では「避難場所周辺の自動車避難による混雑の回避策が必要」「徒歩避難者との分離が必要」等の課題が共有された。

●訓練後ワークショップでは「避難場所の選択肢を複数持つことが必要」「隣接する町内会が合同で避難訓練を実施し、参考になる取組を共有すべき」等の課題が共有された。

８月２９日(木)15:00～17:00 訓練実施前ワークショップ

・防災専門家（卜部厚志新潟大学教授）による能登半島地震に関する講演の後、３町内会代表者からそれぞれの避難計画が発表され、参加者間で情報共有が行われた。

▼訓練実施前ＷＳ

▼町内会代表者の報告

１０月１２日(土) 8：００～9:00 地震・津波防災訓練

・「午前８時に上中越沖を震源とする地震が発生。上越市で震度６強を観測し、新潟県上中下越に大津波警報が発表された。市内では津波による浸水被害や家屋の倒壊、土砂崩れが発生している」との想定でシェイクアウト訓練と津波避難訓練が実施された。

・津波避難訓練の主な実施会場は旧古城小学校、直江津中学校、えびす神社境内等である。特に旧古城小学校では、自動車による避難の実施･検証が行われた。

・参加者は「地域別避難行動計画」に基づいて指定避難所、指定緊急避難場所に自主的に避難した。

・上越市避難所初動対応職員は「避難所開設･運営マニュアル」に基づいて自主防災組織及び施設管理者の協力を得て指定避難所を開設し、避難者の受け入れを行った。

▼津波避難訓練（旧古城小学校）

▼津波避難訓練（直江津中学校）

▼津波避難訓練（えびす神社境内）

１０月１２日(土) 9：30～10：15 訓練実施後ワークショップ

・訓練全体の概要結果報告及び３町内会代表者から各地区の訓練の実施結果が報告された。

・防災専門家等から「住民の意識が高く、誇りを持ってよいと思う」等の講評があった。

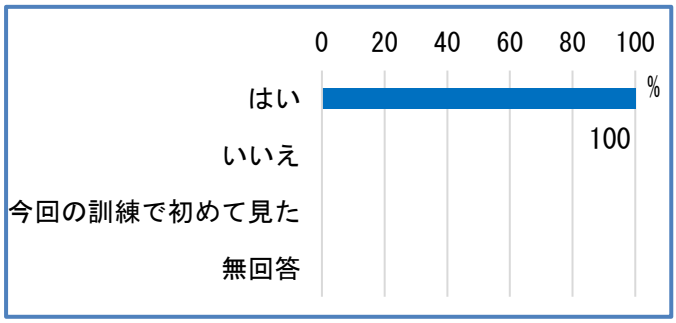
▼訓練後ＷＳ

▼訓練後ＷＳ
（防災専門家の講評）

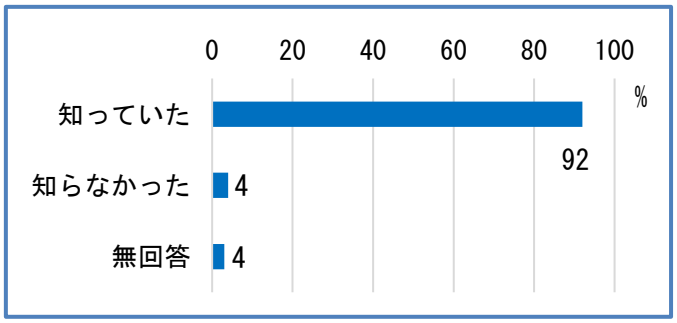
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

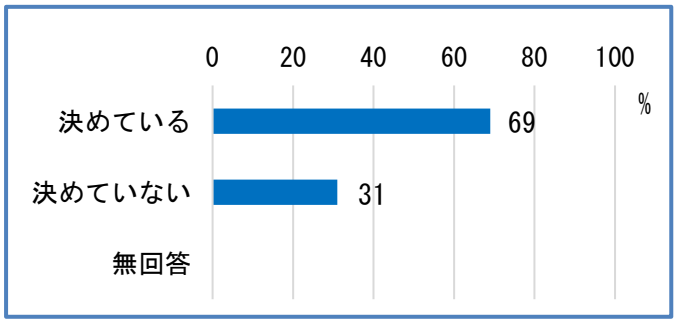
１．市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



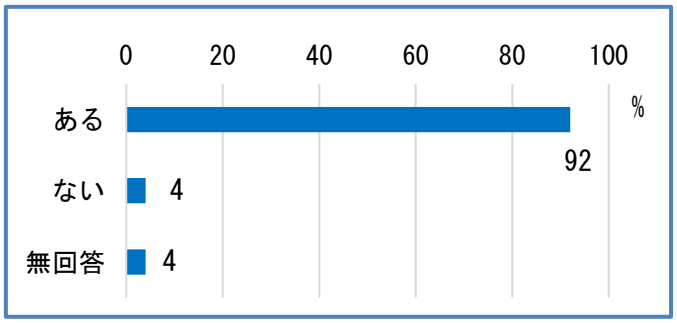
２．津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



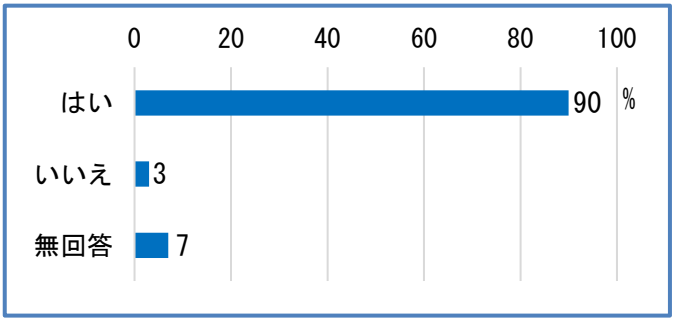
３．災害時に家族同士でどのように連絡を取り合うかを家族の中で決めていますか。



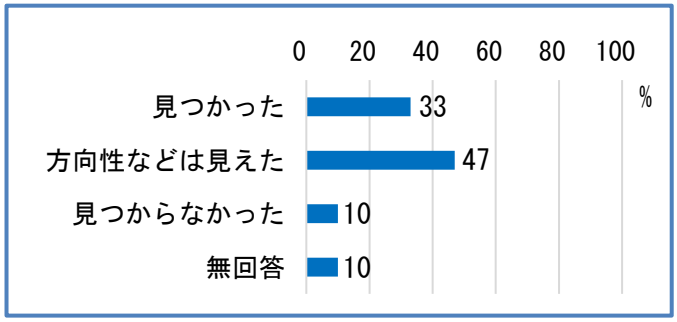
４．自治会や隣近所で災害時の避難について話しあったことはありますか。



５．今回のワークショップを通じて訓練などの必要性の意識は高まりましたか。

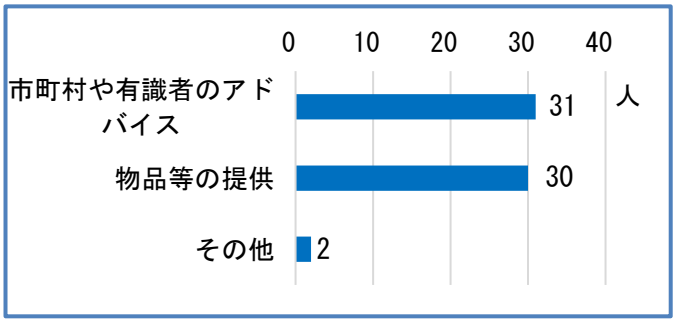


６．今回のワークショップを通じて、津波からの避難時における問題点の解決策や方向性は見つかりましたか。

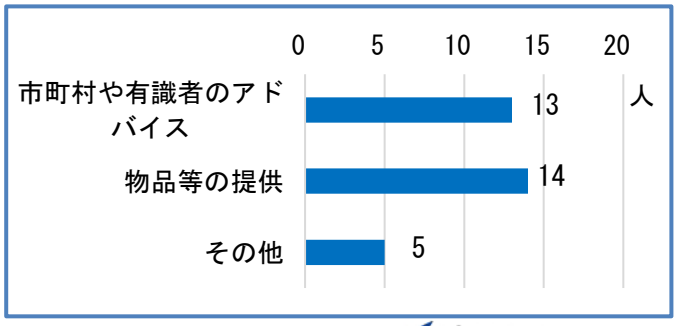


７．今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、市からどのような支援があると良いですか。（複数回答可）

（訓練前）



（訓練後）



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練（新潟県佐渡市・内閣府）

実施報告書（概要版）

新潟県佐渡市について

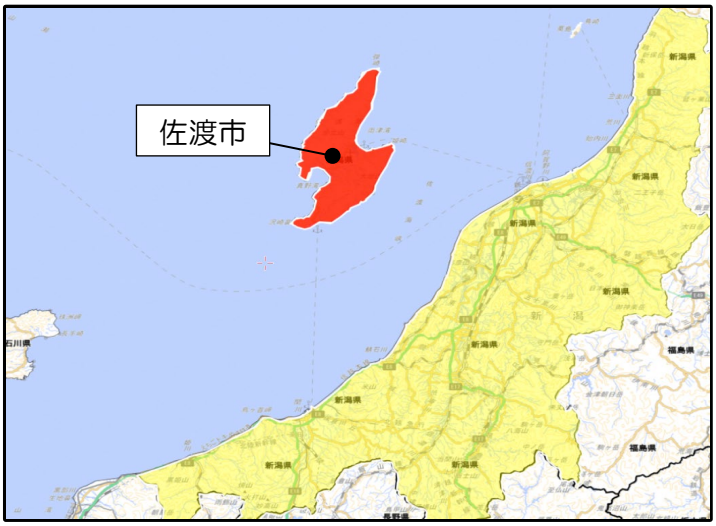
（さどし）

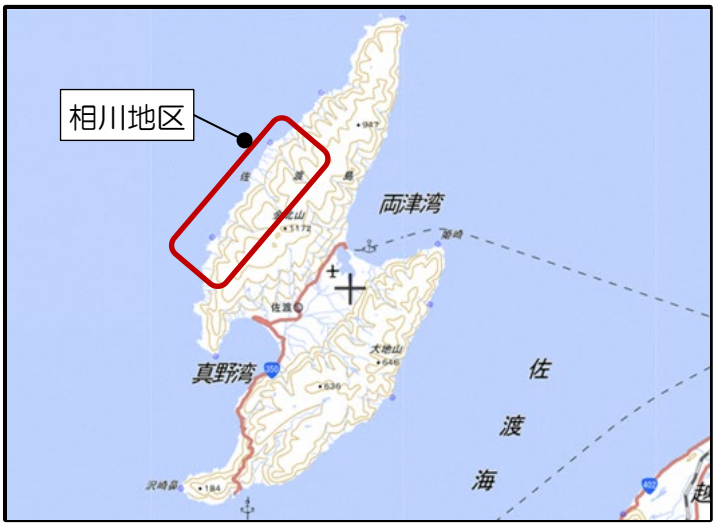
佐渡市は、新潟県の佐渡ヶ島全域を市域としている。平成１６年に島内の１０市町村が合併して誕生した。面積は約855.68平方キロメートルで、人口は48,463人（令和６年８月末時点の住民基本台帳人口）であり、主要産業は農業（特に米作り）、漁業（イカやブリが有名）、そして地酒の生産である。観光資源としては、トキ、金銀山、佐渡おけさなどがある。

佐渡市は、自然災害に対する防災活動に力を入れており、地域防災計画において、地震、津波、風水害などの自然災害に対する予防策や緊急対応策を含め、災害発生時の対応を明確にしている。

市内には多くの自主防災組織が結成されており、日常的な防災訓練や防災知識の普及活動を行っている。災害発生時には情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導、二次災害防止のための巡視など、幅広い活動を行う。

定期的に総合防災訓練を実施していることから市民や関係機関が災害時の対応を確認し、実践的な訓練を通じて防災意識を高めている。佐渡市の防災活動は、地域全体で協力し合い、災害に強いまちづくりを目指している。





出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和６年１１月１７日（日）午前９時００分、佐渡西方沖を震源とする強い地震が発生し、佐渡市沿岸に大津波警報が発表されたという想定のもと訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年９月28日（土）13:30～15:30
【地震・津波防災訓練】令和６年11月17日（日）　9:00～ 9:30
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年11月17日（日）10:00～11:30

■主　　催：佐渡市、内閣府

■参加者数：３４７名

■参加機関：国土交通省北陸地方整備局、陸上自衛隊第３０普通科連隊、航空自衛隊佐渡分屯基地、自衛隊新潟地方協力本部佐渡駐在員事務所、新潟地方気象台、佐渡海上保安署、佐渡警察署、新潟県佐渡地域振興局、佐渡総合病院、新潟県建設業協会佐渡支部、佐渡市消防団 等

■訓練項目：シェイクアウト訓練／津波避難訓練

■訓練特色：訓練実施前ＷＳで検討した避難経路で、実際に避難してイメージどおりの避難行動ができたか等の検証を実施した。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練実施前ワークショップにおいて、能登半島地震における佐渡市での状況（最大震度5強観測・津波警報・液状化など）を振り返り、地震時の安全確保行動や声掛け避難の重要性を共有した。また地域ごとに班分けし、津波が起こった際に、自宅や職場から向かう一時集合場所や避難ルートを考えてもらい、平常時から家族や地域で避難について話し合う重要性を学んだ。

○地震・津波避難訓練において、訓練参加者は概ね想定どおり津波浸水エリア外に避難することができた。

○訓練実施後ワークショップにおいて、訓練事前ワークショップで考えていた避難イメージや実際に訓練した時のイメージ差異、訓練から得られた学びを共有した。この訓練を踏まえて、今後相川地区として地区防災計画策定へ向けて取り組んでいくべきことを認識できた。

【課題】

●民家から高台へは急勾配の階段があり、高齢者が多い住民には駆け上がることが困難である。

●車道はすべて片道一車線であり、1人1台で高台に避難すると渋滞を起こすため災害時の防災計画で地区としてルール決めしておくことが重要である。

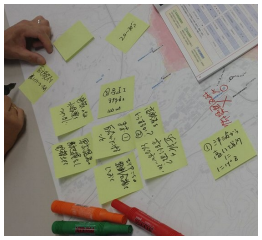
●佐渡金山の世界遺産登録などで、観光客が増加しているため、まずは住民の防災上のまとまりを明確にし、そして住民以外の帰宅困難者を含めた防災計画としておく必要がある。

９月２８日(土) 13:30～15:30　訓練実施前ワークショップ

・防災専門家（田村圭子新潟大学教授）から、「令和６年能登半島地震に学ぶ」と題し、地震の規模や被害状況、地震のメカニズム、緊急地震速報が鳴ったときの安全行動、避難についての事例紹介があった。
・地域ごとに、津波が起こった際に、自宅や職場から向かう一時集合場所や避難ルートについて話し合った。また各地域ごとに避難ルートの考え方や懸念点を共有し、新たな気づき得る機会となった。

▼防災専門家講演

▼ハザードマップを使ったグループごとの意見交換



１１月１７日(日) 9:00～9:30　地震・津波防災訓練

・午前９時に地震が発生、津波警報が発表されたとの想定でシェイクアウト訓練と津波避難訓練を実施した。

・津波避難訓練はハザードマップの浸水エリア外の高台にある施設等に避難することで完了とした。
（次のステップとして県道31号線へ、最終的には指定避難所である相川中学校へ避難となるが、本訓練では、まずは浸水エリアから避難する所をゴールとした。）

・津波避難訓練は概ね１５分以内に完了した。

▼津波避難訓練の様子（市営住宅前広場）

▼津波避難訓練の様子（相川ふれあい集会所）

▼津波避難訓練の様子（善知鳥神社）

１１月１７日(日) 10:00～11:30　訓練実施後ワークショップ

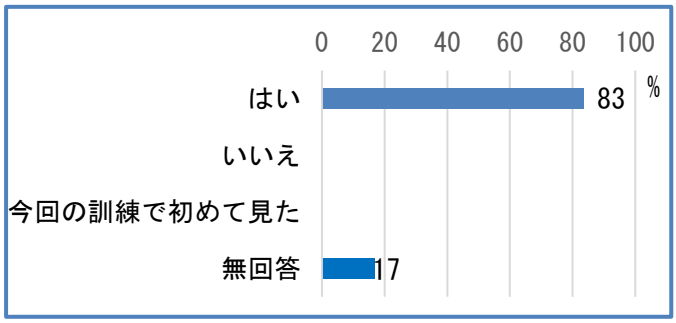
・避難訓練をしたことから避難イメージや実際に訓練した時のイメージ差異、訓練から得られた学びを共有した。
・この訓練を踏まえて、特に今後増えるであろう観光客や帰宅困難者への対応も含め、今後、相川地区として地区防災計画策定へ向けて取り組んでいくべきことを認識できた。

▼意見交換

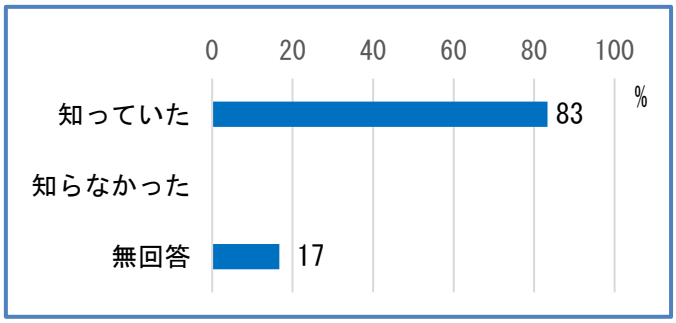
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

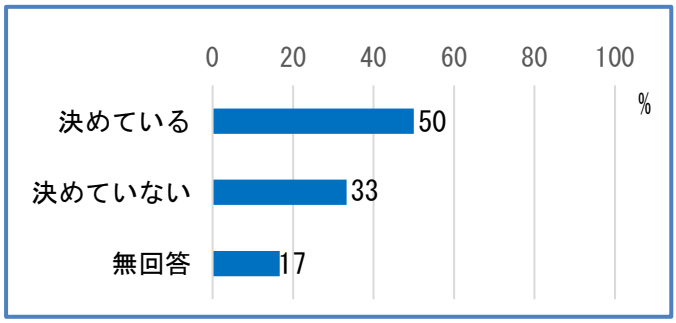
１．市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



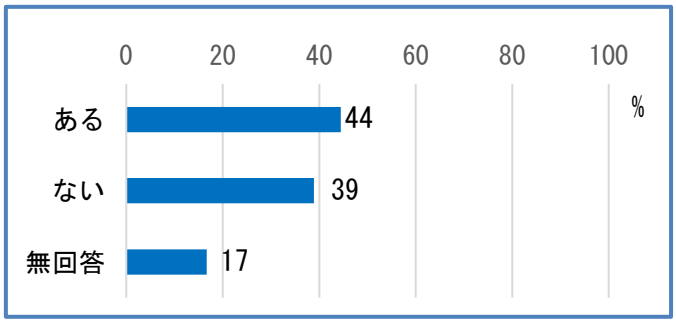
２．津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか？



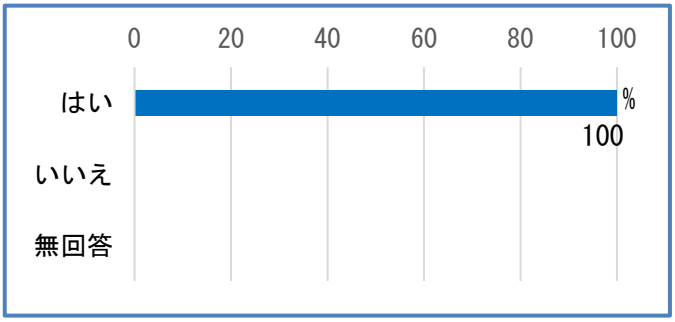
３．災害時に家族同士でどのように連絡を取り合うかを家族の中で決めていますか。



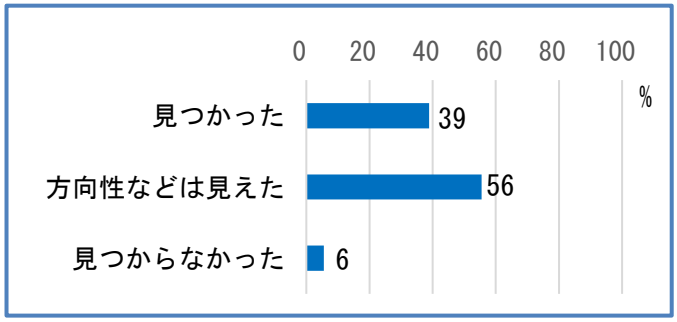
４．自治会や隣近所で災害時の避難について話しあったことはありますか。



５．今回のワークショップを通じて訓練などの必要性の意識は高まりましたか？

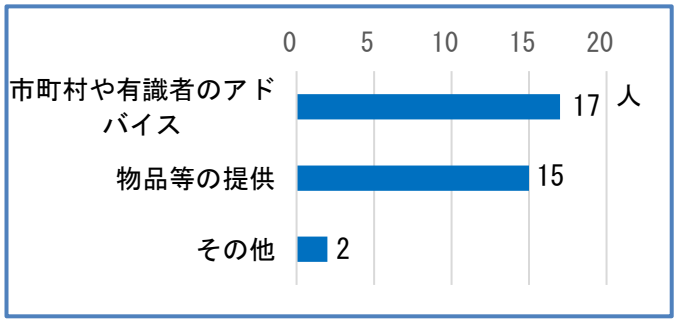


６．今回のワークショップを通じて、津波からの避難時における問題点の解決策や方向性は見つかりましたか？

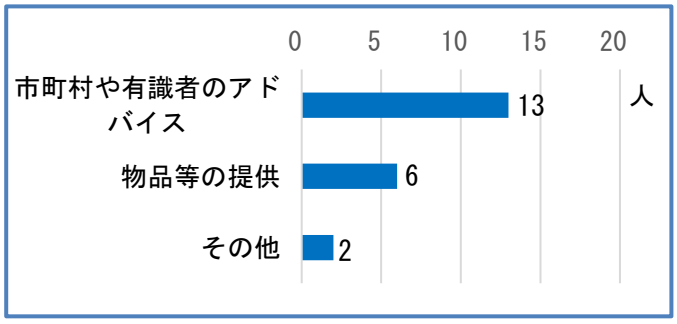


７．今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、市からどのような支援があると良いですか。（複数回答可）

（訓練前）



（訓練後）



佐渡市 Niigata Sado City　内閣府 Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（福井県坂井市・内閣府）

実施報告書
（概要版）

福井県坂井市について

（さかいし）

坂井市は福井県の北部に位置し、平成１８年３月に、三国町、丸岡町、春江町、坂井町の４町が合併し誕生した市である。

市の中部は広大な坂井平野が広がる穀倉地帯となっており、南部は九頭竜川が流れ、西部は砂丘地および丘陵地が広がり豊かな自然環境に恵まれている。

観光地としても有名で、国の名勝・天然記念物「東尋坊」、現存１２天守のひとつである「丸岡城」、北前船で栄えた「三国湊」などがあり、観光客も多く訪れる。

人口は約88,481人（令和２年国勢調査）で、面積は約209.67平方キロメートルである。

坂井市は過去にいくつかの大きな地震を経験している。昭和２３年６月２８日に発生した福井地震ではマグニチュード７．１を記録し、福井県全域に甚大な被害をもたらした。旧丸岡町や旧春江町も大きな被害を受け、多数の建物が倒壊し、多くの死傷者が出た。

津波に関する大規模な被害の記録はないが、福井県は地震による津波のリスクを考慮し、津波シミュレーションを行い、最大浸水深を示す地図を作成している。

坂井市では、これらの災害に備えるために地震ハザードマップや防災ガイドブックを提供し、市民に対して日常的な備えや避難方法の周知を行っている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和6年10月27日（土）午前8時00分、日本海沖を震源とするマグニチュード7．6の地震が発生し、坂井市震度7を観測、市内全域で大きな被害が発生するという想定のもと訓練を実施。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年９月25日（水）19：00～21：00
【地震・津波防災訓練】令和６年10月27日（土）8：00～10：45
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年10月27日（土）11：00～12：30
※１０月２７日に予定していた地震・津波防災訓練及び訓練実施後ワークショップは中止となった。

■主　　催：坂井市、内閣府

■参加者数：51名（訓練実施前ワークショップ）

■参加機関：訓練対象地区(雄島地区)の行政区（自治会）、嶺北三国消防署　等

■訓練項目（予定）：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、避難所開設運営訓練　等

■訓練特色：各行政区では、一時避難場所へ避難した後、区長を中心に安否確認を行い、結果を電話またはLINE現地災害対策本部へ連絡する一時避難、安否確認訓練を実施し、雄島地区では、施設管理者、避難所支援員の協働による避難所開設運営訓練を実施して避難所の役割、避難所開設方法等を学ぶ予定であった。

訓 練 の 成 果

【成果】
〇事前に実施した、能登半島地震時の雄島エリア住民の避難行動に関するアンケートの行動分析結果より、当時の住民の避難行動が共有された。
事前アンケートの結果をもとに、ワークショップを行い避難手段やルート、観光客の対応等の課題について議論を行った。
課題解決への話し合いの場として設定された訓練実施後ワークショップは中止となったが、課題が共有されたことにより、問題解決に向けた契機となる機会となった。

【課題】
●一時避難所と避難所の区別ができていない、観光客の避難対応、避難所への移動ルート、避難所のキャパシティの問題等を検討する必要がある。

９月２５日(水) 19:00～21:00 訓練実施前ワークショップ

・防災専門家（竹田周平福井工業大学教授）による能登半島地震の振返りと、事前に実施した能登半島地震時の雄島エリア住民の避難行動に関するアンケートの行動分析を行った結果が報告された。
・事前アンケートの結果をもとに、課題を見つけるためのワークショップを行った。

▼防災専門家による講演

▼訓練実施前ＷＳ

１０月２７日(日)予定　地震・津波防災訓練

地震・津波防災訓練は、中止となった。

▼津波ハザードマップ

▼防災ガイドブック

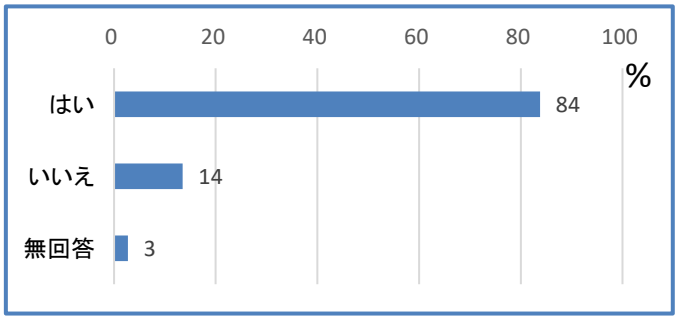
１０月２７日(日)予定　訓練実施後ワークショップ

訓練実施後ワークショップは、中止となった。

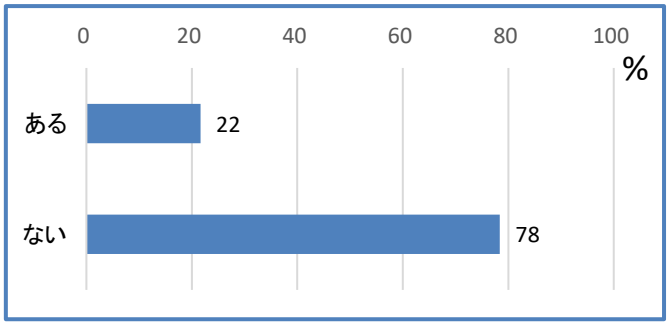
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するためアンケート調査を実施した。

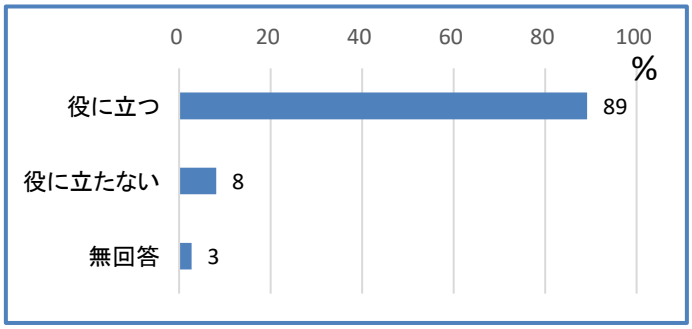
1．市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



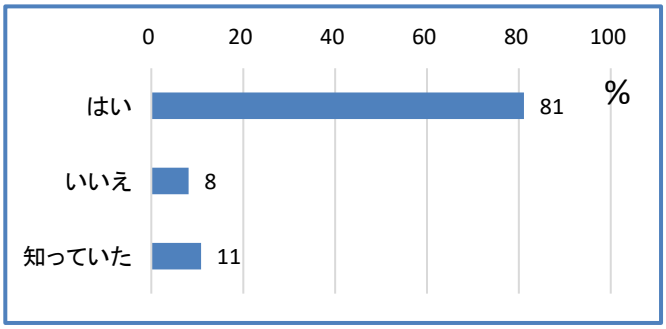
2．過去に防災に関するワークショップに、参加したことはありますか。



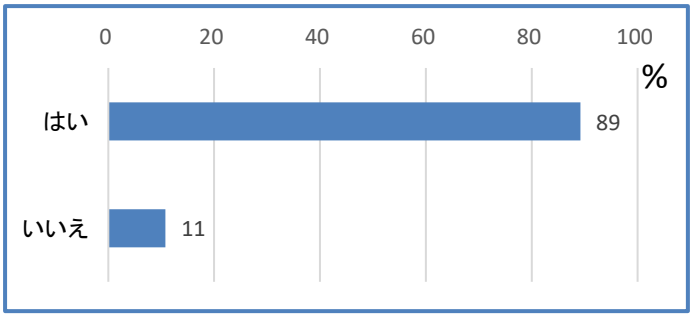
3．今回のワークショップは、役に立つと思いますか。



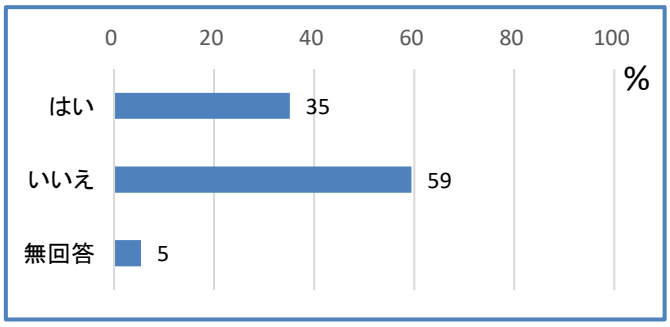
4．今回のワークショップを通じて、避難する場合の地域の危険性について、把握できましたか。



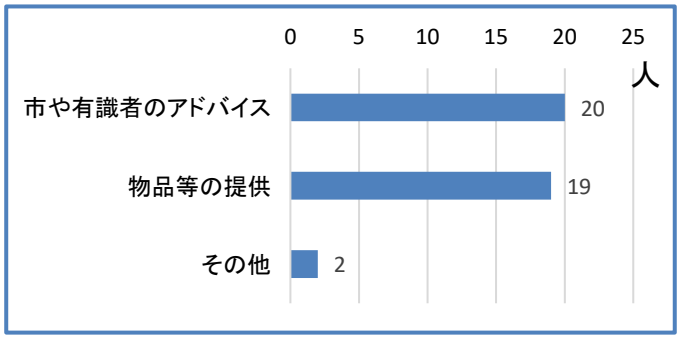
5．今回のワークショップを通じて、訓練などの必要性は高まりましたか。



6．地区防災計画とは何か知っていますか。



7．今後、地域独自の防災訓練を実施する場合、市からどのような支援があると良いですか。(複数回答可)



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（三重県大紀町・内閣府）

実施報告書
（概要版）

三重県大紀町について

（たいきちょう）

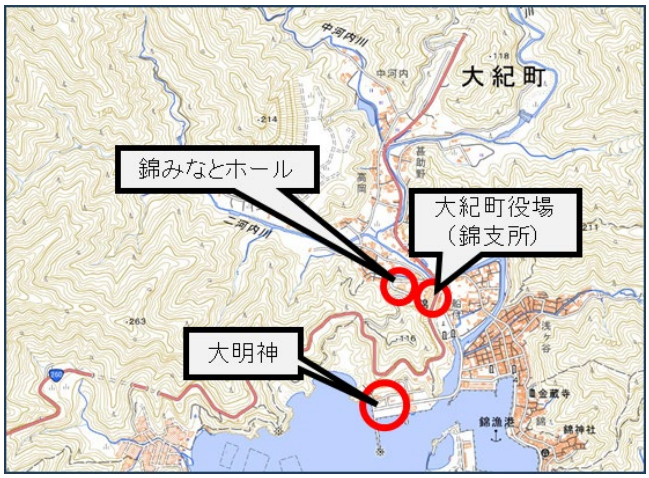
三重県大紀町は三重県の中南部に位置し、東部及び南部は紀伊山脈の分水嶺を境として東部は度会町、南部は南伊勢町、紀北町に接し、西部及び北部は大台町と隣接している。東西約２５km、南北約２６kmで総面積約２３３㎢のうち約９１％を山林が占め、地形は全般に急峻で、町内を流れる一級河川の宮川、大内山川、藤川沿いに民家と耕地が散在する農山村部と僅かな土地に民家が集中する沿岸部から成る典型的な農山漁村地域で、農用地は約４％、宅地は１％と狭小である。

大紀町は、比較的温暖な気候ではあるが、三重県内の他の地域と比べても降水量が多く、また、山間部と海岸部では地勢による違いがみられる。

特に梅雨時期や、８～１０月の台風シーズン、秋雨時期に多量の降水があり、停滞前線等の影響を受けやすい地域といえる。

南海トラフ地震が発生した場合、大紀町では最大震度７が想定されている。

また、津波については、町内では錦地区のみが被害を受けるが、理論上最大規模の津波高は１６m、最短到達時間は８分（津波高１m）と想定されており、過去最大規模の津波高は７．３m、最短到達時間は１１分（津波高５０cm）と想定されている。



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和6年11月9日（土）午前9時頃、紀伊半島沖を震源とするマグニチュード9．1の南海トラフ地震が発生し、大紀町内では最大震度7を観測する揺れが発表され、9時2分に、大紀町錦地区では最大高さ12mの津波が到達したという想定のもと、訓練を実施。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和6年10月14日（日）10：00～12：00
【地震・津波防災訓練】令和6年11月9日（土）9：00～12：00
【訓練実施後WS】　令和6年11月9日（土）13：00～14：00

■主　　催：大紀町、内閣府

■参加者数：246名（第1部訓練）
訓練実施前WS：16名、訓練実施後WS：16名

■参加機関：錦地区住民、紀勢地区広域消防組合、陸上自衛隊、大紀町消防団、三重県警察、三重県防災対策部、海上保安庁、中部電力パワーグリッド（株）、大紀町商工会建設部分会、大紀町食生活改善推進協議会

■訓練項目：ｼｪｲｸｱｳﾄ訓練、地震・津波避難訓練、関係機関災害時訓練ほか

■訓練特色：地震・津波避難訓練に続いて、関係機関による人命救助、電力復旧、物資搬入等の訓練を行った。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練は、2部制で行われた。第1部では、シェイクアウト訓練、地震・津波避難訓練が行われた。246名が参加し、最寄り避難場所までの避難経路等の確認を行ったほか、錦小学校においては、児童を対象としたシェイクアウト訓練等を通じ、参加者の災害対応力向上を図った。

○第2部では、三重県警察・紀勢広域消防・陸上自衛隊・中部電力パワーグリッド（株）・尾鷲海上保安部がそれぞれ救助・電力復旧・物資搬入の訓練を行った。各種訓練を見学することで、 防災意識向上へつながっているものと期待される。

○避難訓練への地域住民の参加および関心について、さらに強いものとなり、防災に対する気運の醸成が見られた。児童をはじめ幅広い年齢層に対して防災意識の啓発が行われた。

○関係機関による各種訓練においては、各機関が自らの装備や初動行動、役割を地区住民に披露し、理解が得られていた。

【課題】

●高齢者など避難行動要支援者を支援しながらの津波避難訓練が必要である。

●夜間や悪天候時の避難についても訓練しておく必要がある。

●各指定避難所における開設・運営訓練や、集落の孤立を想定した訓練は今回は実施できておらず、今後、住民を主体とした共助力を養成するための訓練が必要である。

１０月１４日（月）10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

・「巨大災害に備える」をテーマに、前半は参加者による訓練前研修として、津波避難経路の確認や、避難上の課題等について話し合いを行った。
後半は防災専門家（川口淳・三重大学教授による津波に関する講話を行った。

▼津波避難に関する講話

▼地図を用いた話し合い

１１月９日（土）９：００～12:00 地震・津波防災訓練

● 地区住民は、シェイクアウト訓練の後（小学校のみ）、自宅最寄りの津波避難施設まで津波避難訓練を行った。（第１部訓練）

● 三重県警察、紀勢消防組合、陸上自衛隊、中部電力訓練、海上保安庁、中部電力パワーグリッド（株）による各種の訓練を行った。（第２部訓練）

▼津波避難訓練

▼紀勢消防組合による人命救助訓練

▼陸上自衛隊による人命救助訓練

▼海上保安庁による支援物資搬入訓練

１１月９日（土）13:00～14:00 訓練実施後ワークショップ

● 直前に行った避難訓練を検証し、「各自の避難訓練の状況」、「各自の反省点」、「各地区の津波避難に関する課題」、「各地区の津波避難に関する課題の解決方法」を各班で共有し、班ごとに発表。各参加者ともに、今後のさらなる防災訓練の充実に意欲を見せた。

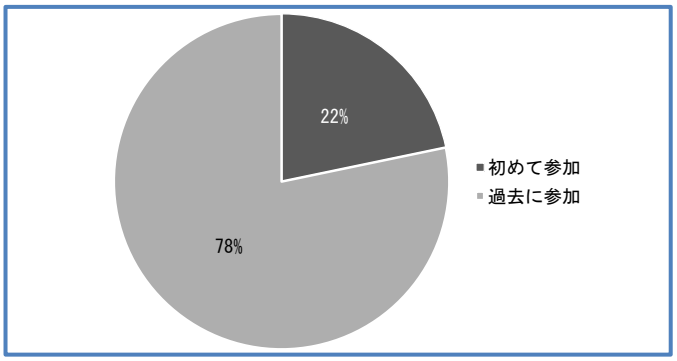
▼ワーキングの様子

▼課題の解決方法の発表

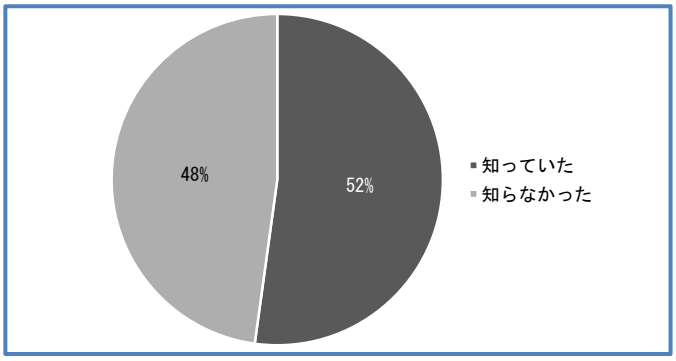
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

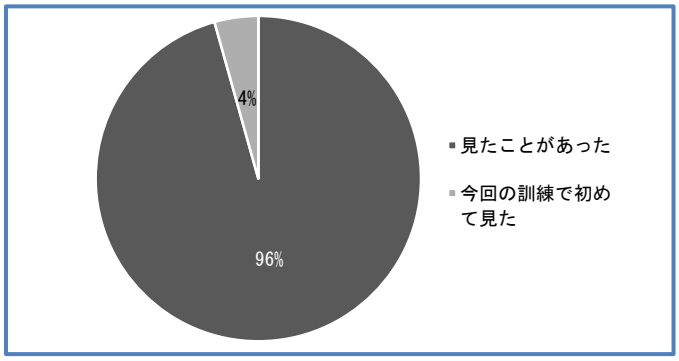
■地震・津波防災訓練に参加したのは、初めてですか。



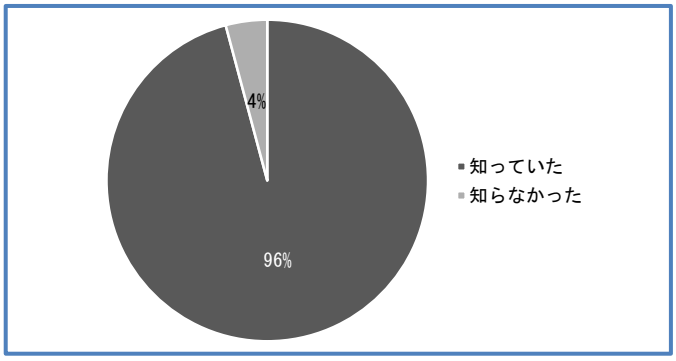
■11月5日が、「津波防災の日」であることを知っていましたか。



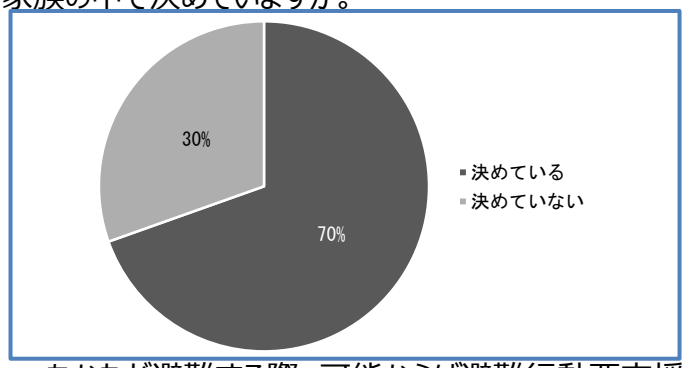
■町で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



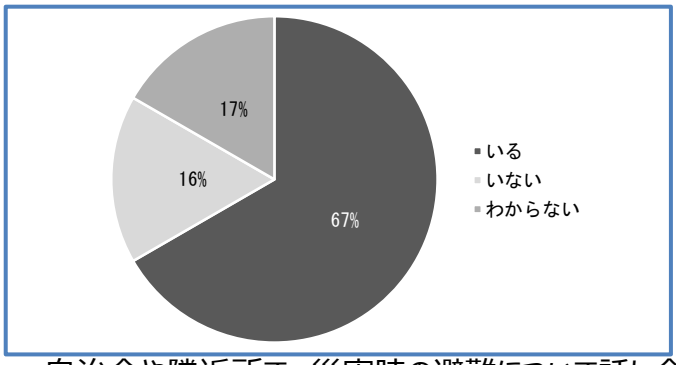
■津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



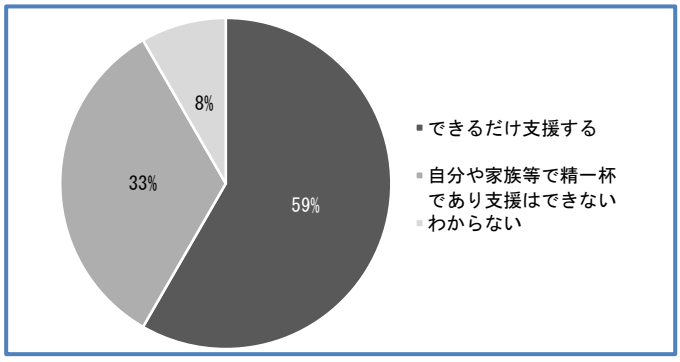
■災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを、家族の中で決めていますか。



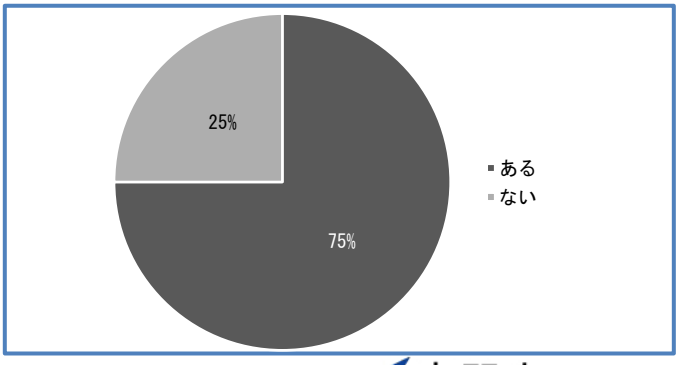
■あなたの周辺に、避難行動要支援者（※避難のため様々な支援が必要な方）は、いらっしゃいますか。



■あなたが避難する際、可能ならば避難行動要支援者の避難を支援しようと思いますか。



■自治会や隣近所で、災害時の避難について話し合ったことはありますか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（宮崎県日向市・内閣府）

実施報告書
（概要版）

宮崎県日向市について

（ひゅうがし）

宮崎県日向市は宮崎県の北東部に位置し、東側は日向灘に面している。重要港湾である「細島港」を中心に港湾工業都市として発展を続けており、令和７年３月１日時点の人口は５万６，５８０人、世帯数は２万５，０９５となっている。

気候は温暖であり、年間平均気温は約１７度と、降雪を見ることはほとんどない。年間平均湿度は７０％前後で、年間降水量は２千㎜を超えてくる一方で、日照時間も２００時間を超えるなど、晴天に恵まれた地域でもある。雨は梅雨時期から晩夏にかけて多く、この時期のみで年間降水量の大半を占めている。中でも夏から秋にかけての雨は、台風や秋雨前線に伴う一時的な豪雨が多く、梅雨時期の豪雨とともに多くの災害を起こす原因となっている。

想定される地震については、「南海トラフ地震」が挙げられる。歴史上この「南海トラフ」では大規模な海溝型地震が多く発生しており、今後も大規模な地震の発生が予測されている。その際、地震による揺れや津波によってさまざまな被害が人やライフライン、インフラに及ぶことが試算されている。

今回訓練を実施した南部地区では、沿岸部の低地に大規模な工場が立地するなど、津波避難訓練の実施を通じた意識の向上が求められている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：　１月26日（日）午前8時5分頃、日向灘北部東方海上を震源とするマグニチュード9．1の地震が発生し、日向市内では最大震度7を観測する揺れが発生し、8時30分に津波の第一波が到達する想定のもと、訓練を実施。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和6年9月29日（日）10：00～12：00
【地震・津波防災訓練】令和7年1月26日（日）8：05～12：00
【訓練実施後WS】　令和7年1月26日（日）10：30～11：30

■主　　催：　日向市、内閣府

■参加者数：　地区住民354名(津波避難訓練)
訓練実施前WS：42名、訓練実施後WS：61名

■参加機関：　陸上自衛隊第43普通科連隊第4中隊、航空自衛隊新田原基地、自衛隊宮崎地方協力本部日向地域事務所、宮崎県防災救急航空隊、日向市東臼杵郡医師会（ＤＭＡＴ）、三股病院、民間患者等搬送事業者、宮崎県薬剤師会、九州旅客鉄道株式会社、宮崎県防災士ネットワーク日向東臼杵支部、日向市自主防災会連絡協議会、日向市区長公民館長連合会、日向市社会福祉協議会、佐川急便日向営業所、中村消防防災株式会社、キンパイ商事株式会社、南栄工業、日本ハムマーケティング株式会社、日本赤十字社宮崎県支部、日向ライオンズクラブ、NTTフィールドテクノ、日向市、日向市消防本部、日向市消防団

■訓練項目：　シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所移動訓練、X(旧Twitter)情報収集訓練、災害対策本部運営訓練、避難所開設訓練、受付・安否確認訓練ほか

■訓練特色：　実施地区の沿岸部には、外国人労働者が多く働く工場が立地している。周辺住民を含めた津波避難を促すため、訓練ではドローンにより日本語及び英語で津波避難を呼びかけた。

訓 練 の 成 果

【成果】

○津波避難訓練では、
・参加者は階段、坂道等を含め最短経路により最寄りの津波避難場所へ避難したほか、津波浸水想定区域外の内陸部においては、一時的な集合場所において隣近所どうしの安否確認を行うなど、各自の地域の特性に応じた緊急行動が実践できていた。
・沿岸部に立地する工場に勤務する外国人労働者らは、その施設に隣接し緊急時のみ立入が許可された鉄道線路を横切る形で実践し、普段とは異なる行動手順を体験、実践できた。

○津波避難訓練後に続けて実施した図上訓練では、津波到達により自宅等を失い指定避難所（訓練会場の小学校の体育館）での生活を想定し、参加者は必要なレイアウトや運営上配慮すべき事項を話し合い、被災後のイメージを高めることができた。

○その他の訓練では、防災関係機関の初動行動や装備が紹介され、地域学習ができた。

【課題】

●地域内で多く活動する外国人は、日本語に不慣れであることから、津波避難時には、地域住民からの声掛けのほか、やさしい日本語の活用、津波警報等の情報だけでなく必要な具体的行動を含む呼びかけ等を実践し、実効性を高める必要がある。

●地震発生時から津波避難、避難生活までの一連の経験を踏まえ、地域住民どうしでの助け合いの要領等を地区防災計画にまとめ、今後継続的に検証することが必要である。

９月２９日(日) 10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

・「津波避難を想定した避難所の運営」をテーマに、防災専門家（澤田雅浩・兵庫県立大学准教授）による講演が行われた。
・参加住民が避難所運営に関するクイズゲームを行い、各班で発表を行った。

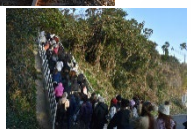
▼基調講演

▼避難所運営に関するクイズ

１月２６日(日) ８：０５～12:00 地震・津波防災訓練

・日向市内で最大震度７を観測する揺れが観測され、大津波警報が発表された想定のもと、地区住民は、シェイクアウト訓練、津波避難訓練などを行った。
・地区内の指定避難所において、避難所運営訓練など各種体験訓練を実施した。

▼津波避難訓練
（沿岸部工場からの避難）



▼津波避難訓練
（避難所の様子）

▼関係機関との孤立地区対応訓練

▼炊き出し訓練

▼物資搬入訓練

１月２６日(日) 10:30～11:30 訓練実施後ワークショップ

・避難訓練の振り返りとして訓練の当日に第二部訓練の一部として避難所である寺迫小学校で行われた。
・各班からの発表後に防災専門家による講評をうけた。最後に内閣府から南海トラフ臨時情報に関する説明がされた。

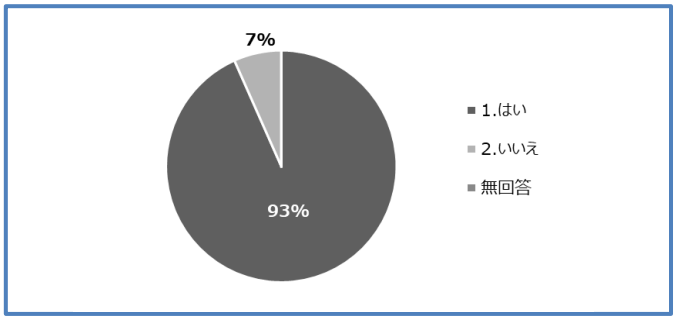
▼ふりかえり講話

▼地図を用いた話し合い

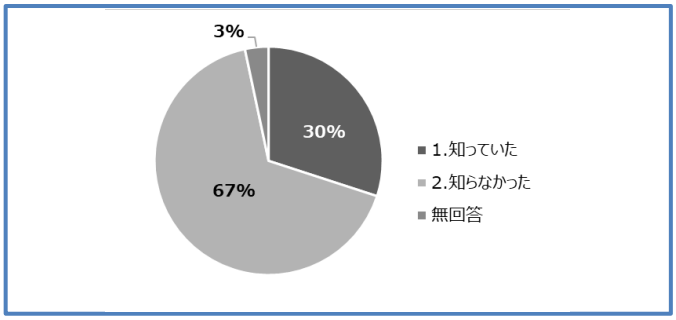
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

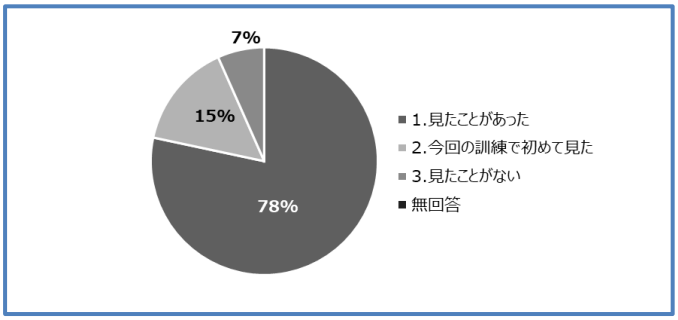
■地震・津波防災訓練に参加したのは、初めてですか。



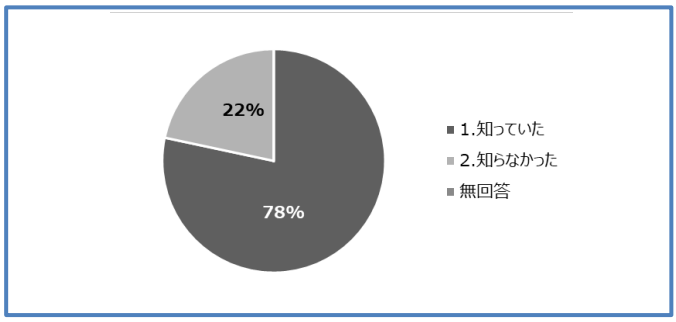
■１１月５日が、「津波防災の日」であることを知っていましたか。



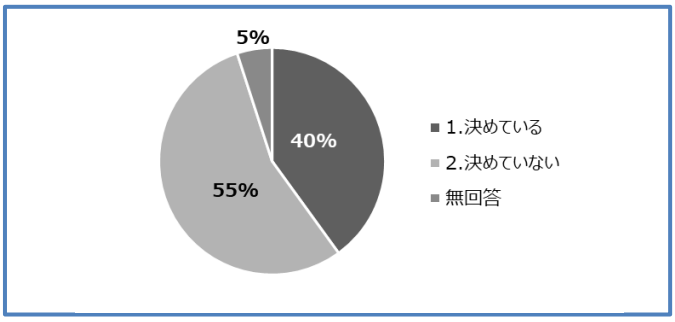
■市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



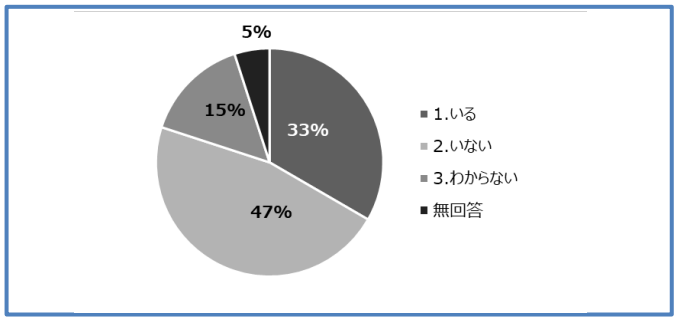
■津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



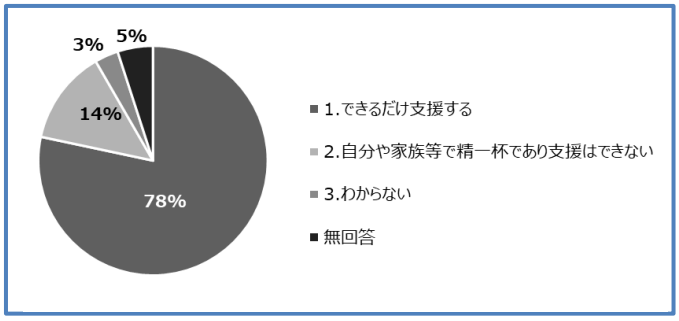
■災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを、家族の中で決めていますか。



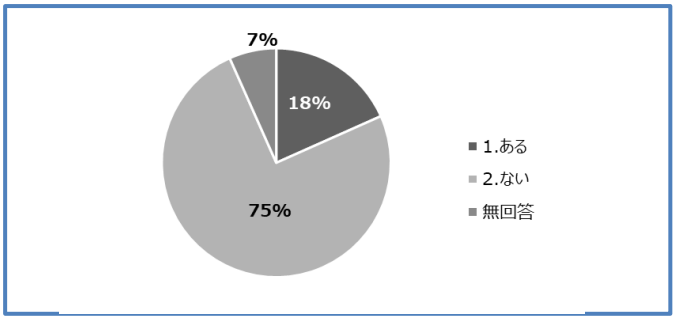
■あなたの周辺に、避難行動要支援者（※避難のため様々な支援が必要な方）は、いらっしゃいますか。



■あなたが避難する際、可能ならば避難行動要支援者の避難を支援しようと思いますか。



■自治会や隣近所で、災害時の避難について話し合ったことはありますか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

令和６年度地震・津波防災訓練
（鹿児島県喜界町・内閣府）

実施報告書
（概要版）

鹿児島県喜界町について

（きかいちょう）

鹿児島県喜界町は奄美群島の５つの島の東北端に存在し、鹿児島から南へ３８３km、奄美大島の東約２５kmの洋上にある。

集落は町内の全域に広がり、総面積の約４０％にあたる２３㎢が耕地、約２０％の１１㎢が林野で構成されている。概して平坦な島であり、海岸段丘など低い丘陵地が多く、島の東南から南北にかけて標高２０３ｍの丘陵が広がっている。

一般的に温暖多雨で海洋性亜熱帯に属し、年間平均気温が２２℃、年間降水量は2,813mmとなっており、雨は梅雨時期から夏にかけて多く、この時期のみで年間降水量の大半を占めている。夏から秋にかけての雨は、台風や秋雨前線に伴う一時的な豪雨が多く、梅雨時期の豪雨とともに多くの災害を起こす原因となっている。

想定される地震については、桜島や開聞岳、霧島などの火山活動に伴って大きい地震が火山の周辺部で発生する可能性がある。また、鹿児島県周辺に震源域のある海溝型地震はないものの、南海トラフ沿いの巨大地震や日向灘、南西諸島の海域で発生する地震で津波や強い揺れの被害を受ける可能性が想定されている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和６年１１月２３日（土）午前９時００分頃、奄美大島の東の近海を震源とするマグニチュード８．２の地震が発生し、喜界町内では最大震度６強を観測する揺れが観測され、９時０６分に、町内に最大高さ５．４ｍの津波が到達するという想定のもと、訓練を実施。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和６年１０月２６日（土）14:00～16:00
【地震・津波防災訓練】令和６年１１月２３日（土）　9:00～12:00
【訓練実施後ＷＳ】　令和６年１２月１４日（土）14:00～16:00

■主　　催：喜界町、内閣府

■参加者数：２３１名（第1部訓練）
訓練実施前ＷＳ：３１名、訓練実施後ＷＳ：１５名

■参加機関：喜界町坂嶺校区住民、喜界町消防団、自主防災組織、地域女性団体連絡協議会、小規模多機能ホーム十五夜、大島地区消防組合喜界消防分署、奄美警察署、陸上自衛隊 奄美警備隊、自衛隊喜界島通信所、気象庁名瀬測候所、喜界島ジオパーク協議会

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、専門家等による講話、関係機関による各種体験訓練ほか

■訓練の特色：津波避難訓練では、地域や住民等の特性を踏まえ、住民による自動車避難や要配慮者施設における職員による利用者の誘導等を実践した。

訓 練 の 成 果

【成果】

〇地震発生からの一連の行動を実践するシェイクアウト訓練、津波避難訓練に加え、専門家等による講話や関係機関による各種体験訓練を第2部として組み合わせることで、知識学習の効果が得られた。防災意識向上へつながっているものと期待される。

〇津波避難訓練については、アドバイザーの協力を得て事前に測量を行い、訓練前ワークショップにおいて自宅等の標高や災害リスクを理解した上で実施できた。
自動車による避難者は、津波避難場所に到着してもエンジンをかけたまま警戒を継続し、高い津波の到達の際には直ちにさらに高い場所へ移動できるよう工夫していた。

〇専門家等による講話は、東日本大震災での経験と教訓、津波警報等の解説のほか、地域団体による地元の地形特性の防災上の特徴等について話題提供され、参加者は多面的な学習ができた。

【課題】

●要配慮者施設での津波避難は、日頃から個々の利用者特性に応じた装備（車いす等）や誘導時の配慮事項等を確認しておき、継続的な訓練実施が必要である。

●夜間や悪天候時の避難についても訓練しておく必要がある。

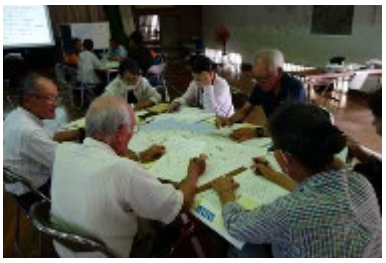
●訓練実施地区が離島である特性を再認識し、救援活動に時間を要することを考慮した、地域住民による避難所開設・運営等についても取り組む必要がある。

１０月２６日(土) 14:00～16:00 訓練実施前ワークショップ

・「地震・津波時の避難を考える－喜界町で自然災害に備える」をテーマに、防災専門家（岩船昌起鹿児島大学教授）による講話を行った。
・参加住民が訓練実施地区周辺の地図を用いて避難路の確認や避難時の課題等を話し合った。

▼津波避難に関する講話

▼地図を用いた話し合い



１１月２３日(土) ９：００～12:00 地震・津波防災訓練

・喜界町内で最大震度６強を観測する揺れが観測され、大津波警報が発表された想定のもと、地区住民は、シェイクアウト訓練、津波避難訓練を行った。
・地区内の指定避難所において専門家等による講話、関係機関による各種訓練・展示を実施した。

▼津波避難訓練
（津波避難場所の様子）

▼津波避難訓練
（要配慮者施設の様子）

▼専門家による講話

▼炊き出し訓練

▼非常持出品の展示・啓発

１２月１４日(土) 14:00～16:00 訓練実施後ワークショップ

・「地震・津波に備える－避難行動と避難生活の計画づくり」をテーマに、防災専門家による振り返りと避難計画に関する講話を行った。
・参加者による避難訓練の検証とブラッシュアップに関する話し合いを行った。

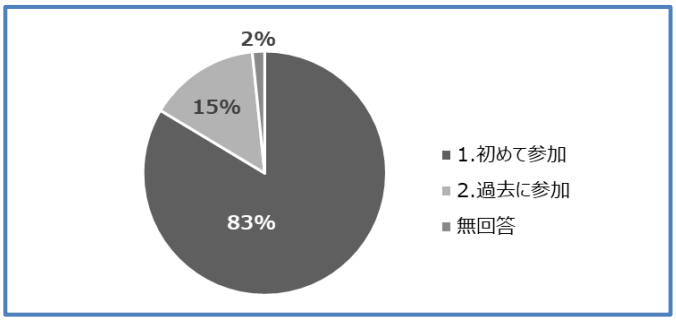
▼ふりかえり講話

▼参加者の話し合い

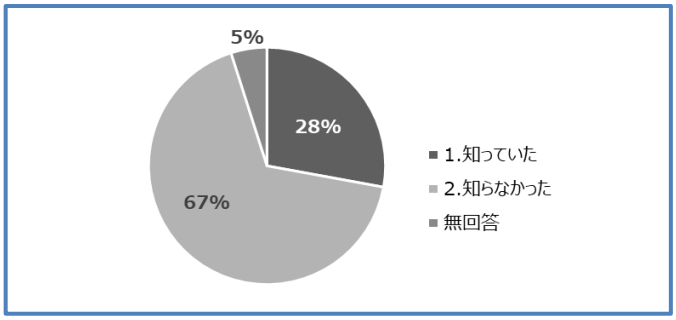
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

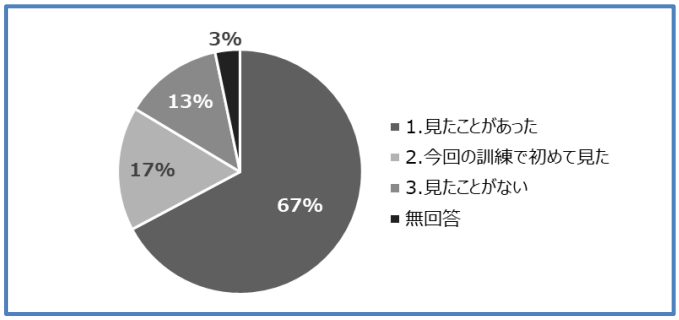
■地震・津波防災訓練に参加したのは、初めてですか。



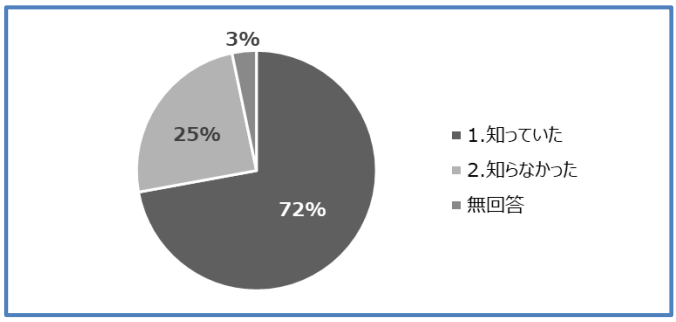
■１１月５日が、「津波防災の日」であることを知っていましたか。



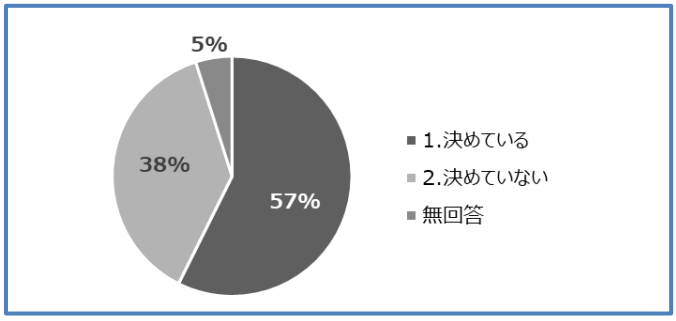
■町で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



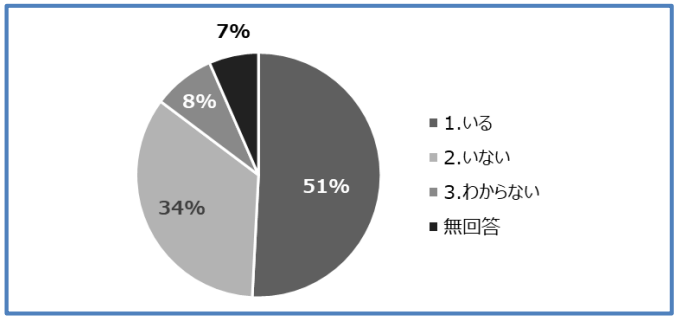
■津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



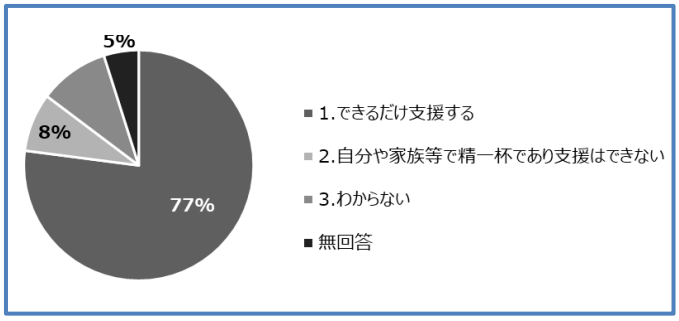
■災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを、家族の中で決めていますか。



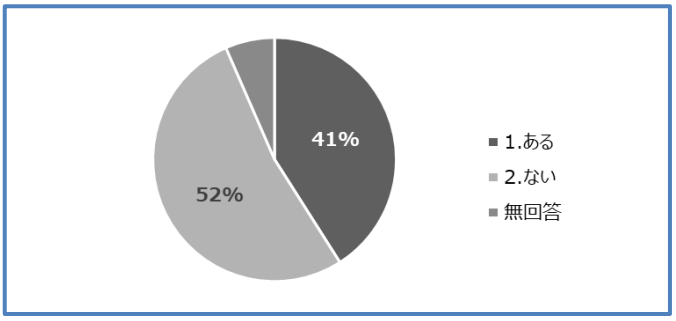
■あなたの周辺に、避難行動要支援者（※避難のため様々な支援が必要な方）は、いらっしゃいますか。



■あなたが避難する際、可能ならば避難行動要支援者の避難を支援しようと思いますか。



■自治会や隣近所で、災害時の避難について話し合ったことはありますか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan

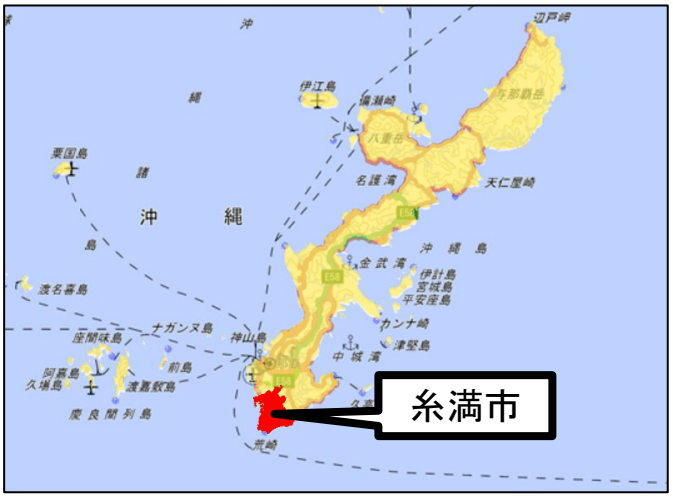
令和６年度地震・津波防災訓練
（沖縄県糸満市・内閣府）

実施報告書
（概要版）

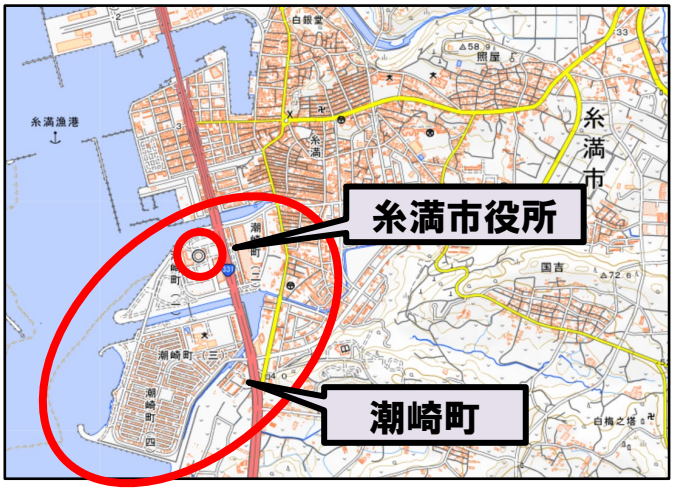
沖縄県糸満市について

（いとまんし）

沖縄県糸満市は沖縄本島最南端であり北緯２６度８分・東経１２７度４０分に位置している。北は豊見城市、東は八重瀬町に接し、西と南はそれぞれ東シナ海と太平洋に面している。糸満地区は、農漁村から自然発生的に形成された市街地であり、平成３０年における住宅総数は、家屋棟数２万4,850戸である。新市街地の西崎町・潮崎町は道路等の基盤整備の進んだ住居・商業・工業地区となっている。



糸満市の気候区分は亜熱帯海洋性気候であり、年降水量2,160㎜、年平均気温２３℃、年平均相対湿度７３％となっている（那覇（沖縄気象台）における平成３～令和２年までの３０年間の観測値を平均した値（平年値））。平成３～令和２年までの沖縄県への台風の接近数は、平均すると年７．７回である。



糸満市など県内の１６市町村は、南海トラフで著しい地震災害が生じるおそれがあり、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和6年11月17日（日）午前8時頃、沖縄本島南東沖を震源とするマグニチュード９．０の地震が発生し、糸満市内では最大震度6強の揺れをを観測した。大津波警報発表後、8時21分に、糸満漁港に津波の第一波が到達する想定のもと、訓練を実施。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和6年10月26日（土）10:00～12:00
【地震・津波防災訓練】令和6年11月17日（日）8:00～14:00
【訓練実施後WS】　令和6年11月17日（日）9:00～9:30

■主　　催：糸満市、内閣府

■参加者数：約50名（津波避難訓練）
訓練実施前WS：16名、訓練実施後WS：22名

■参加機関：（津波避難訓練）地域住民、糸満市、糸満警察署、沖縄気象台
（糸満市総合防災訓練など以降の訓練）上記に加え、糸満市消防本部、糸満市消防団、沖縄県警察本部、陸上自衛隊、航空自衛隊、糸満市社会福祉協議会、糸満市自主防災組織連絡協議会、糸満市赤十字奉仕団、糸満市女性防火クラブ、社会医療法人友愛会友愛医療センター、こくみん共済coop沖縄推進本部

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、防災講話、関係機関各種体験訓練ほか

■訓練の特色：今回の訓練対象地区における住民参加型津波避難訓練を初めて実施した。防災専門家による講話を通じて東日本大震災での実態を学び、津波避難の必要性とその意識を高めた。その後、子育て世代や外国籍住民等の多くの参加のもと、多文化共生を考慮した炊き出し訓練や、各種実動・体験訓練等を行った。

訓 練 の 成 果

【成果】

〇津波避難訓練は、訓練対象地区においては初めて実施した。
・訓練前ワークショップでは、地震発生時からの各自の時点ごとの居場所を地図上でプロットしながら、津波避難の確実性を検討し、参加者によっては「逃げ切れず津波に遭う」場合がありうるなど緊張感を高めることができた。
・訓練当日は、参加者各自の生活形態での被災を再現し、野球練習中の少年チームが走っての避難や、ペット同伴の家族全員での徒歩避難、歩行力未熟な乳児が津波避難場所の階段をゆっくり上がる動作等を実体験でき、各人の津波避難時の課題を洗い出すことができた。

〇津波避難訓練終了後に、市内各地の市民等を広く対象にした展示・体験訓練を実施した。
子ども連れの家族や、多様な国籍の外国人居住者ら幅広い層が参加した。
・炊き出し訓練は、ハラル食やアレルギー物質を含まないカレーライスなど、多様な人々への配慮の必要性を啓発できた。
・関係機関による各種訓練・展示を通じて、参加者は、各機関の装備や初動行動、役割等の知識の向上を図ることができた。

【課題】

●津波避難訓練の対象地区は、今回が初めての取組であり、継続的な実施が必要である。

●同地区は、近年造成・整備された市街地でもあり、自治会や自主防災組織が未設立である。
今回の訓練やワークショップを通じて、地域コミュニティの必要性の指摘があり、共助の観点からも早期の設置が望まれる。

●糸満市は、多様な国籍の外国人の居住者が多く、地震・津波に関する知識・訓練経験が乏しい場合もあり、今後も多言語等による取組を継続的に進める必要がある。

１０月２６日(土) 10:00～12:00 訓練実施前ワークショップ

・地震発生２０分後に津波の第一波が到達することを想定し「各自は地震発生から何分後にどこにいるか」をテーマに、「逃げ地図ワークショップ」を開催した。
防災専門家（賀数淳沖縄大学特別研究員）より「命を守るには避難するしかない」ことが強調された。

▼地図を用いた話し合い

▼話し合い後の講評

１１月１７日(日) ８：００～14:00 地震・津波防災訓練

・地区住民は、シェイクアウト訓練の後、自宅最寄りの津波避難場所まで津波避難訓練を行った。
・気象台の協力を得て「津波フラッグ」の掲出訓練も実施したほか、各津波避難場所では施設管理者が避難者の安否を確認・整理した。
・津波避難訓練終了以降は、市内各地の市民等を広く対象にした展示・体験訓練が行われた。多様な機関の連携・協力のもと、食物アレルギーに配慮した炊き出しや、多言語による防災啓発展示、各機関の車両等の装備や初動行動・役割等が紹介された。

▼津波避難訓練
（津波避難ビルの階段）

▼津波避難訓練
（津波フラッグの掲出）

▼食物アレルギーに配慮した炊き出し訓練

▼自衛隊による避難支援（入浴）訓練

１１月１７日(日) ９：００～9:30 訓練実施後ワークショップ

・直前に終えた津波避難訓練での参加者各自の避難経路を振り返り、家庭へ持ち帰って日頃から取り組むべきことや心構え等を確認しあった。
・防災専門家が、東日本大震災での津波避難の実態と教訓に関する講話を行い、津波避難の理解と実践を訴えた。

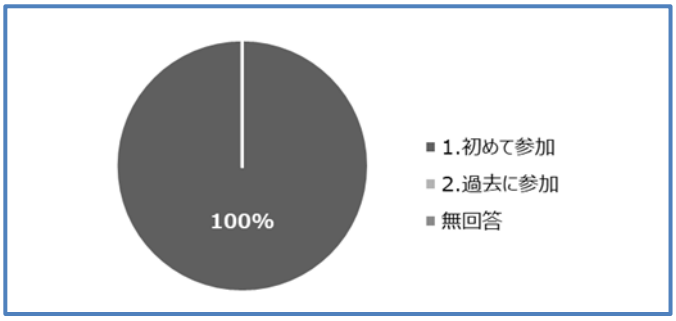
▼避難経路の振り返り

▼防災講話

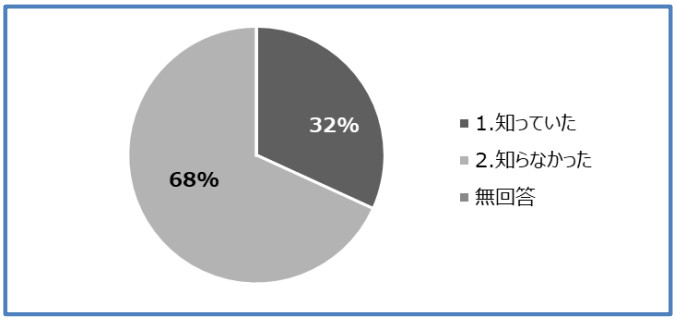
アンケート結果

住民の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

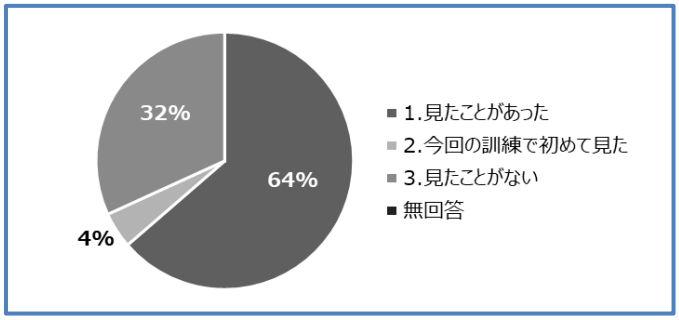
■地震・津波防災訓練に参加したのは、初めてですか。



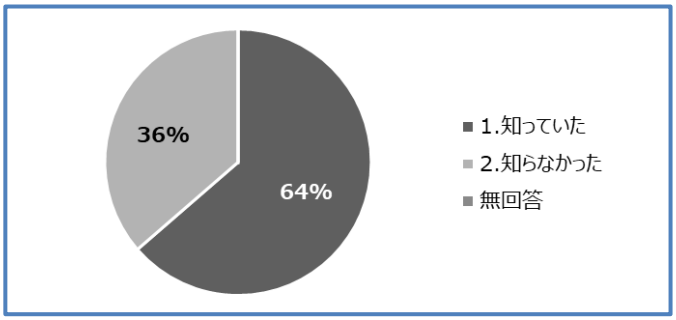
■１１月５日が、「津波防災の日」であることを知っていましたか。



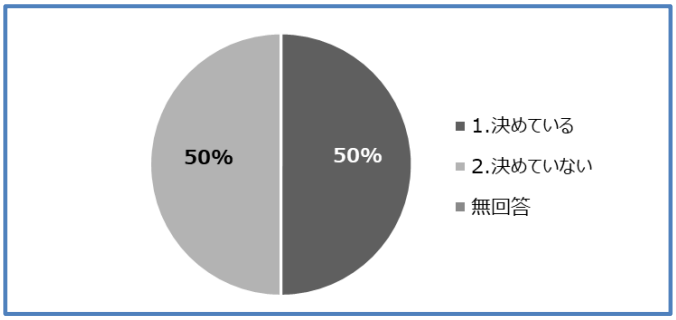
■市で作成している「津波ハザードマップ」を見たことがありますか。



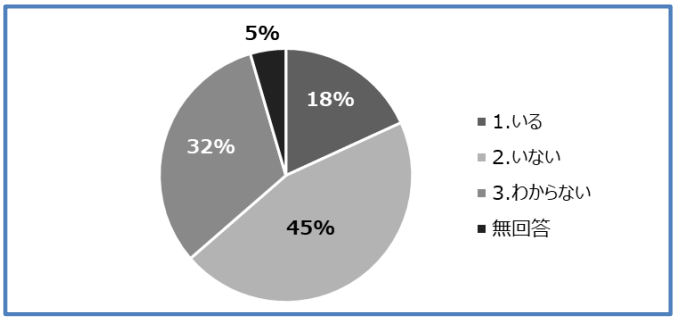
■津波に対する避難先や避難経路を知っていましたか。



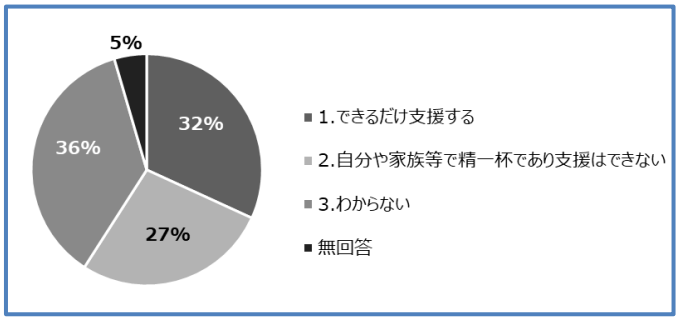
■災害時に家族同士で、どのように連絡を取り合うかを、家族の中で決めていますか。



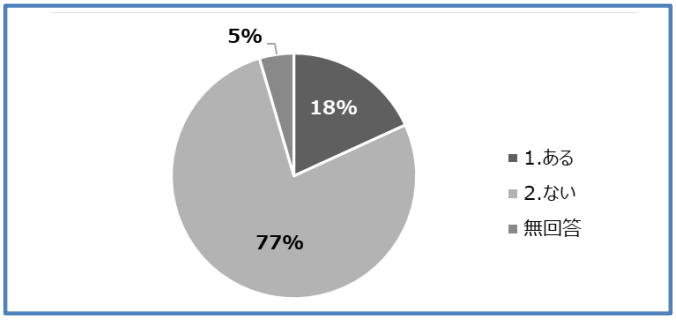
■あなたの周辺に、避難行動要支援者（※避難のため様々な支援が必要な方）は、いらっしゃいますか。



■あなたが避難する際、可能ならば避難行動要支援者の避難を支援しようと思いますか。



■自治会や隣近所で、災害時の避難について話し合ったことはありますか。



内閣府
Cabinet Office, Government of Japan